米国のソ連邦政府承認に関する米国各紙報道振りについて

ニュー・ヨーク　11月18日後発
本　　省　11月19日前着

第二六一號

十七、八日ノ當地方諸新聞ハ米國ノ蘇聯邦承認ニ關スル諸報道ヲ大キク掲載シ又各紙競テ米蘇貿易増大ノ可能性ニ關スル記事ヲ掲ケタルカ其ノ社説ハ赤化宣傳禁止其他ニ關スル協定ノ成立ニ滿足シテ一般ニ承認ヲ歡迎スルト共ニ右ハ既定方針ノ實現ニ過キストシ其ノ論調平靜ヲ保チ居レリ其ノ中十八日ノ「ポスト」ハ右承認ノ結果米蘇貿易ハ當然直ニ増進スヘキ筈ナルモ尨大ナル増加ヲ見ルヘキヤ不明ナリ兎モ角一般的ニ見テ兩國間ニ正常關係恢復シ双方ノ利益トナルコト望マシト述ヘ「ワールド、テレグラム」ハ承認ニ關スル大統領「リトヴイノフ」間往復書翰中ノ兩國ハ今後双方ノ利益及世界平和維持ノ爲ニ協力スヘシトノ一節ハ世界的ニ見テ信用供與其ノ他ノ問題ヨリ數倍重大ナル意義ヲ有ス右ノ約束ハ單ナル外交的承認以上ニ兩國間ノ遠大ナル經濟的及外交的ノ協力ヲ意味ス歐洲及極東ノ平和脅威セラレ居ル今日兩國間ニ貿易増進ノ外平和促進ニ關スル協力ノ成立セルハ大イニ歡迎スヘシト爲シ又「ジヤーナル、オブ、コンマース」ハ承認後ニ來ルヘキ兩國貿易問題ニ關シ今後蘇聯邦ハ第二次五年計畫完成ノ爲主トシテ工業品類ヲ需要スヘク又米國ハ農業救濟ノ爲農産物ノ輸出ヲ希望スヘキヲ以テ兩國間ニハ希望品目上ノ差異アリ又米國ハ工業品ノ輸出促進ノ爲R、F、Cノ信用供與範圍ヲ工業品迄及ホス樣此ノ制度ヲ訂正スルノ必要モアルヲ以テ米蘇貿易促進ニハ多少ノ難關アリ而シテ右ノ貿易ハ供與セラルヘキ信用ノ性質上双方ニ於テ政府ニ依ル廣範圍ノ統制ヲ受クルニ至ルヘキカ米國政府ハ貿易品目ヲ出來得ル限リ増進スルコト得策ナリト論セリ

在米各館ニ郵送ス

英ニ轉電シ英ヨリ露ニ轉電セシメ在歐各大使ニ郵報セシム

七　日ソ外交関係

1　一般問題

311　昭和8年1月11日　内田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛（電報）

共産党中央委員会におけるスターリン演説中日本関係部分の詳細につき回示方訓令

本　省　1月11日後6時発

第七號

十日貴地発聯合通信ニ依レハ「スターリン」ハ党中央委員会及中央監督委員会々議ニ於ケル演説中ニ於テ五年計畫ノ一般「プログラム」ハ六「パーセント」ダケ完成シ得サリシ處右ハ近隣國（複數）ノ不侵略條約締結拒否ト極東ニ於ケル紛爭ニ顧ミ吾人カ豫定ノ生産ヲ多少変更シ吾人ノ防禦力ヲ増加スル爲最新式ノ武器ヲ生産セサルヲ得サリシコトニ其ノ原因ヲ存セリ云々ト述ヘ居ル箇所アル處本件演説中右ノ点其他我國ニ直接間接觸レ居ル点ニ関シテハ演説原文ニ就キ成ル可ク詳細飜訳ノ上電報アリタシ

312　昭和8年2月3日　在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛

日本がソ連邦に対し挑発的とのモロトフ演説に関するカラハンとの往復書簡について

機密公第四九號　（3月20日接受）

昭和八年二月三日

在「ソヴイエト」聯邦
特命全權大使　大田　爲吉〔印〕

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

「モーロトフ」ノ演説ニ關スル本使「カラハン」往復書簡送付ノ件

本件ニ關シテハ概要電報シ置キタル處右往復書簡寫及譯文茲ニ送付ス尚右ニ關スル當地英文新聞掲載記事切抜（省略）御參考迄ニ送付ス

追テ右先方ノ回答中ニハ強ヒテ詮議スレハ尚論議ヲ繼續シ差支ナキモノアルモ先方カ右回答中ニ於テ當方ノ主張ヲ曖昧裡ニ受流シタルハ當方ノ主張ヲ容認シタルモノト思ハレ此上論議スル必要ナキヤニ認メラルルニ付此儘ニ爲シ置キタル次第ナリ就テハ右様御含置相成度爲念右申添フ

拜啓陳者本月二十四日當地新聞紙ノ報スル處ニ依レハ「モーロトフ」氏ハ本月二十三日「ソ」聯邦中央執行委員會會議ニ於ケル演說中ニ於テ

日本某方面ノ對「ソ」態度中個々ノ事實ハ最近特ニ注意ヲ惹キ居レル事ハ遂ニ過般日本陸軍省ニ於テ「ソ」聯邦竝將來ノ在支「ソ」聯邦大使館ニ關スル挑發的報道ヲ發表スル迄ニ至レリ而シテ之等反「ソ」的捏造ニ對シテ我方ヨリ明白ニ反駁セルニモ拘ラス日本外務大臣内田氏ハ一月二十一日日本議會ニ於テ之等ヲ繰返サレタリト述ヘラレタル趣ニ有之候處右陸軍省ノ公表文ナルモノニ關シテハ當大使館ハ何等ノ公報ニ接シ居ラサルヲ以テ其ノ眞否ハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ本月二十一日ノ當地新聞ニ本年一月十五日日本陸軍省ハ日本新聞紙上ニ「コムミユニケ」ヲ發表シ「ソ」聯邦政府竝ニ將來ノ在支「ソ」聯邦大使館ニ關シ挑的(發カ)報道ヲ頒布セリ

右「コムミユニケ」中ニハ過般「コミンテルン」ハ支那共產黨ニ對シ支那赤軍充實ニ專ラ注意ヲ拂ハンコトヲ命シ近ク開館セラルヘキ在支「ソ」聯邦大使館ヲ經テ出來得ル限リ金錢上ノ支持ヲナスヘキ旨ヲ約セリトアリ

更ニ右「コムミユニケ」ハ「ソ」聯邦及南京兩政府間ニ支那市場ヨリ外國商品ヲ驅逐スルノ目的ヲ以テ貿易關係擴張ニ關スル協定成立シタルヤニ述ヘ居レリ

一月十九日在日本「ソ」聯邦大使ハ「ソ」聯邦政府ノ名ニ於テ陸軍省カ斯ル明カニ虛構ナル反「ソ」的報道ヲ公式ノ「コムミユニケ」中ニ於テ頒布シタルニ對シ日本外務次官有田氏ニ抗議ヲ申出テタリ

ト記載セルモノヲ指スモノナルヘク將又「モーロトフ」氏演說中内田大臣カ議會ニ於テ前記ノ所謂挑發的報道ヲ繰返シタリトハ當方ノ知リ得ル範圍ニ於テハ絕對ニ事實ニ非ス同大臣ノ議會ニ於ケル演說ハ過日貴下ニ送付シタル英文ノ通リニシテ其ノ中ニ付强テ右寓意ノ點ニ關係アランカト疑

ハルル箇所ヲ求ムレハ本月二十五日當地新聞カ譯載セル同演說中

過般ノ「ソ」支兩國間國交回復ハ東方全般ニ於ケル共產主義宣傳ヲ猛烈ナラシムルニ非スヤト恐ルルモノアリ予ニ於テハ今斯種意見ニ關シ何等判斷ヲ下スノ時期ニ非スト雖モ若シ共產主義者ノ活動及共產軍ノ掠奪ノ爲永ク苦シミタル楊(揚カ)子江流域ト南支那ニ於ケル赤系分子ノ運動ニシテ「ソ」支接近ノ結果猛烈トナルニ至ランカコハ東方平和ノ爲重大ナル脅威トナルヘシ依テ日本ハ勿論之ヲ監視セサル可カラス

トアル點ナランカト推測セラルルモ該演說ノ趣旨ハ前記所謂陸軍省ノ「コムミユニケ」ナルモノト其ノ内容及意義ニ於テ全然相異セルハ極メテ明瞭ノ事實ナルニ依リ「モーロトフ」氏ノ演說ハ何等誤解ニ出テタルナランカト存セラレ候間本使ハ此ノ點ニ付貴下ノ注意ヲ喚起シ日「ソ」兩國ノ親交關係ニ鑑ミ世間ノ誤解ヲ防ク爲何等カ適當ノ善後策ヲ講セラレンコトヲ希望スル次第ニ有之候尚本使ハ右ノ一方法トシテ本書翰ヲ公表セラルルコトニ付テハ毫モ異存ヲ有セサル次第ニ付此段申添候　敬具

昭和八年一月二十八日

大田　爲吉

「ソ」聯邦外務人民委員部　「カラハン」殿

譯文

拜復陳者「ソヴイエト」政府ハ一月二十八日附貴大使「ノート」所載ノ箇々ノ聲明ノ論議ニ入ルヲ必要ト認メサルト共ニ貴「ノート」ニテ明カナル如ク日本政府ハ本年一月二十一日莫斯科諸新聞ニ發表セラレタル「ソヴイエト」政府ノ明白ナル打消ヲ惹起セル日本陸軍省ノカノ「コムミユニケ」ニ對シ贊同スルノ意思無キモノト了承スル旨貴大使ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

貴大使ノ表明セラレタル御希望ニ從ヒ貴「ノート」ハ本官ニ於テ新聞紙上ニ發表致スヘク同様ニ右「ノート」ニ對スル本回答モ亦發表致ス可ク候

貴下ニ對シ茲ニ敬意ヲ表シ候　敬具

一九三三年一月三十一日

エル、カラハン　自署

日本特命全權大使　大田　爲吉殿

313　昭和8年2月8日　在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛

北樺太の日本側利権その他の問題に関しカラハンと会談について

機密公第五六號　（3月20日接受）

昭和八年二月八日

在「ソヴイエト」聯邦
特命全權大使　大田　爲吉〔印〕

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

北樺太ニ於ケル本邦利權ト日「ソ」關係ニ關スル件

二月五日本使「カラハン」ニ會見三日「カ」ヨリ申出ノ「ソ」側捕鯨船小笠原島入港事件ニ關シ貴電第十三號ノ御趣旨ヲ説明シタル機會ニ於テ亞港發閣下宛電報第九號樺太越境邦人拘禁事件ニ言及シ詳細事情ヲ語リタル上前記捕鯨船事件ノ取調ハ發生以來僅ニ一ケ月ヲ經過シタルノミナルカ右越境二邦人ノ事件ノ如キハ既ニ半歳ヲ超エ今尚未決中ナリト云フニ至リテハ怠慢モ餘リニ甚タシ斯ル「ソ」側地方官憲ノ亂暴ナル取扱振リニ對シテハ中央ヨリ何分ノ指令ヲ與ヘラルル樣切望スル旨ヲ力説シ尚聞ク所ニ依レハ我方ヨリ貴方ニ申出テタル事件ニシテ未タ解決ヲ見サルモノ十數件ニ上ル由ニ付何レ取纒メ何分ノ申出ヲ爲ス所存ナルカ總シテ地方ニ於ケル紛爭ニ對シテハ中央トシテ成ル可ク斯カルコト無キヲ考慮スルコト兩國親善ノ爲望マシキコトナリ予ハ將來日「ソ」兩國間ニ於テ萬一不幸ニシテ不祥事ヲ見ルコトアリトセハソハ滿洲方面ノ問題ヨリ寧ロ北樺太、「カムチヤツカ」方面ノモノカ禍源トナル可能性多カラスヤト豫テ思考シ居レリ蓋シ「ソ」側ノ法規並ニ地方官憲ノ邦人取扱振リハ甚タ峻嚴ニシテ折角貴下ノ盡力ニ依リ成立セル北京條約ニ基ク我カ利權業者ノ事業ノ如キ現在之カ爲經營困難ニ陷リツツアリ現ニ我カ利權業者ヨリ本使ニモ種々苦情若クハ希望申出テ居ル始末ニシテ卒直ニ云ヘハ北樺太方面ノ日本側事業ニシテ現狀ノ如キ不利ナル狀態ニ忍ハサルヲ得ストセハ日「ソ」間國交同復ノ利益何處ニアリヤトノ議論一部ニ存在スル實狀ナルト共ニ此ノ方面ノ問題ハ頗ル愼重ニ考フル必要アリト述ヘタルニ對シ「カ」ハ「ソ」聯邦ノ法規ハ日本人ニ對シ區別的待遇ヲ爲シ居ル次第ニ非ス若シ斯ル事實アリトセハ兩國外交交渉ノ目的物トナリ得ヘキモ然ラサレハ外務當局ノ干與スヘキ筋合ニ非スシテ利

權業者ノ爲ニ別ニ設ケアル請願手續ニ依リテ解決スヘキモノナリ「ソ」聯邦ノ勞働關係法規ハ世界ニ類ヲ見サル進歩的ノモノナルヲ以テ到底資本主義國ノ事業家並ニ技術者ニハ氣ニ入ラサルヘシ又彼等ハ之ヲ回避セントスルカ故ニ種々紛爭ヲ生スル次第ナルカ國内ニ於テ仕事ヲ爲ス資本家カ其ノ國ノ法規ニ從フハ當然ニシテ之ヲ如何トモ致シ難カルヘシト語リ本使ハ國法遵奉義務ノ議論ハ固ヨリ爭ハレサルモ元來貴方ハ勞働者ノミヲ標準トシ我方ハ資本及ヒ勞働兩者ノ利害ヲ考ヘ居ルモノニシテ之レ所謂資本主義ノ經濟關係ト「ソ」側ノ夫レト異ナル點ナルカ資本家ナルモノハ常ニ中央ニ關係ヲ有シ其ノ出先ニ於テ爲ス事業ハ直チニ中央ニ影響ヲ持ツ以上彼等ノ事業ノ成否ハ單ニ地方ノ勞働者ノ利害問題ナリト云フカ如ク簡單ニ片付ケラルルモノニ非ス其ノ性質上影響スルトコロ餘程重大ナルカ故ニ本使トシテハ北樺太方面ノ問題ハ頗ル注意ヲ要スルト共ニ何トカシテ此ノ方面ノ紛擾ヲ未發ニ防キ度シト考フ而シテ本使一個ノ考ヘヨリスレハ若シ「ソ」側ニ於テ北樺太賣却ニ意アラハ我ニ於テ之ヲ買取ルモ一方法ナラスヤト思ヒ居ル位ナルカ此ノ問題ハ既ニ約十年前「ヨツフエ」來邦當時ニ起リタルコトモアリ貴下ハ如何ニ考ヘ居ラルルヤト語リタルニ「カ」ハ貴大使ハ日本資本家ニ苦情アリト云ハルルモ自分ノ有スル情報ニ依レハ利權事業ハ充分收支相償ヒ居リ「ソ」側地方官憲亦充分好意的態度ヲ持シ居ルヲ以テ貴大使ノ憂慮セラルルカ如キ重大ナル事態ニハ非ス當業者ノ申出ノ如キモサノミ重要視スル必要モアラサルカト思ハル又樺太賣却問題ハ成程十年前ニハ存在シタルモ現在「ソ」側トシテハ之ヲ考ヘ居ラス又日「ソ」國交保持ノ利益今日何處ニアリヤトノ論ハ「ソ」側ニ於テモアリ先ツ云ハハオ互ノ話ニシテ格別取上ケテ云フ程ノコトニモ非サルヘシ尤モ地方ニ於テ不快ナル紛爭ヲ見サル樣中央ニ於テ考慮スヘキハ固ヨリ望マシキコトナルモ「ソ」側政府監督ノ下ニアル企業ニシテ尚且紛爭絶エス裁判事件等多キ事態ニ鑑ミレハ外國人ノ利權事業ニ於テ紛爭ノ存スルハ寧ロ當然ノコトナリ只若シ「ソ」側地方官吏ノ取扱ニシテ違法、怠慢、越權等ノコトアリタル場合ニハ自分ト貴大使トノ交渉ニ依リ圓滿解決スルノ途アリ自分ノ解決案ハ唯タ此ノ一途アルノミト答ヘタリ尚ホ本使ヨリ本使ハ「ソ」側カ日本人ノ事業ニ區別的待遇ヲ與フルモノトハ云ハサルモ他外國人存在セス獨リ日本

人ノミ存在スル地方ニ於テ地方官憲ヨリ壓迫的取扱ヲ蒙ムルモノカ如何ニ不滿ヲ感スルカ又之ニ依ツテ生スル影響如何カ問題トナル次第ナリ政治家、外交官トシテハ之ヲ防止スル手段ヲ採ルコト大局上必要ナリト考ヘ居ルモノナリト述ヘ尚利權業者ノ請願手續ヲ爲スヘキ機關トハ何ヲ指サスヤト問ヘルニ「カ」ハ實ハ確實ナルコトハ自分モ知ラサレハ追テ取調ヘ置カント答ヘタリ

何等御參考迄報告ス

本信寫送附先（本省ヨリ轉送ノコト）

在亞港　佐々木總領事

在「オハ」　多賀谷分館主任

314 昭和8年4月25日　在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛（電報）

不侵略条約など日ソ間諸懸案に関するカラハンとの会談について

モスクワ　4月25日後発

本　省　4月26日前着

第二二四號

日蘇一般問題ニ付懇談ノ意味ヲ以テ二十四日本使「カラハン」ヲ往訪セルカ會談ノ要點左ノ通[1]

本使ヨリ情報ニ依レハ「ソ」支不侵略條約ヲ新任駐支「ソ」大使ノ着任早々調印ヲ見ルヘク又該條約ハ滿洲國ヲ支那ノ領土ト認メ從テ滿洲國不承認等ヲ條件トナシ居ルヤノコトナルカ右事實トセハ折角近時好轉シツツアル日本ノ對「ソ」感情ヲ惡化スルニ至ルナキヤヲ惧ルル處新大臣(使カ)ハ既ニ二十三日着任セル次第ニテモアリ右情報ハ事實ナリヤト質問セルニ「カ」ハ該條約ニ關シ未タ蘇側ヨリ何等交渉センコトナキモ「ソ」トシテハ何レノ國トモ不侵略條約ヲ締結スルヲ主義トナスモノナルヲ以テ何時蘇支間ニ於テモ該條約ニ關スル交渉ヲ開クヤモ知レス御承知アリタク右ニ付日本側ニ於テ敢テ不快トセラルルハ當ラサルヘシ即チ日本側カ蘇側トノ不侵略條約ニ全然興味ヲ有シ居ラレサルハ過般内田大臣カ「ユレーネフ」大使ニ爲サレタル談話ニ依リ明カニ觀取セラルル處ニシテ蘇支間ノ該條約カ日本ノ對蘇態度ヲ惡化スヘシトハ蘇側ノ諒解ニ苦シム處ナリトノ趣旨ヲ以テ答ヘタルニ依リ本使ハ右内田大臣ノ談話ナルモノハ時期尚早ナリトノ意味ニシテ本使トシテハ之ヲ以テ日本カ日蘇不

可侵條約ヲ斷（念）セルモノトハ解シ居ラス蘇側カ蘇支不侵略條約ヲ締結ストセハ日本ノ輿論ハ蘇側カ支那ノ術策ニ乘リタルモノトナシ蘇側ノ措置ヲ攻擊スヘキモノト認メサルヲ得サルニ付此點ニ關シテハ蘇側ニ於テ充分念頭ニ入レ置カレンコトヲ望ムト述ヘ尚轉シテ蘇側ニ於テ眞ニ對日親善ヲ念トセラルルナラハ此ノ際兩國ノ通商經濟關係ノ增進調整ニ付考案セラルルコトモ一策ナルヘシト應酬セルニ「カ」ハ北京條約ニ豫見セル通商條約ノ件ハ田中大使ノ當國在任時代ニ蘇側ヨ(リ先カ)申出ヲナシタルモ同大使ハ漁業條約締結後ニ讓リタシトノコトニテ爾來日本側ヨリ回答モナク其儘トナリ居レリ

蘇側トシテハ通商條約乃至通商取極ノ商議ニ入ル事ニ付主義上何等反對無キハ勿論ナルモ事外國貿易委員トモ協議スルヲ要シ直ニ之ニ關スル具体案ヲ提示スル事ハ困難ナリト答ヘタルヲ以テ本使ハ具体案ノ提示有ラハ日本政府ニ傳達シ自分トシテモ同條約ノ成立ニ盡力ヲ辭セサルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ通商關係ニ付考慮スル事モ可ナリト言ヘルモ最モ重要ナルハ政治的親善關係ノ好轉ヲ計ルニ在ルヘク右ニ付テハ差向具体案無キモ蘇側ノ思付ヲ言ヘハ(一)滿洲ニ關スル一種ノ了解ヲ作リ諸問題ニ付日支雙方忌憚無ク其ノ希望ト主張トヲ披瀝シ相互ノ利害カ衝突セサル樣政治的解決ヲ計ル事焦眉ノ急務ナルカ如ク從テ例ヘハ日蘇滿混合委員會ノ如キモ（脱？）術的案ニ基キ協定スル事ニ同意ナリ又(二)東支鐵道ニ關スル紛（爭）モ成ルヘク速ニ解決方希望ス更ニ(三)東支鐵道ニ付テハ日本トシテハ最早同鐵道買（收）ニ付協議ヲ（脱？）有シ居ラレサル如キモ蘇側トシテ今日ト雖モ同鐵道ノ買收ヲ嫌フモノニ非ストノ趣旨ヲ以テ應酬セルニ付本使ハ右(一)中ノ混（合）委員會ニ付テハ日本關係當局ニ於テ具体案ヲ考究中ナリトノ報道ニ接シ居レリ(二)ニ付テハ日本政府ニ於テ諸般ノ事情調査中ノ模樣ナルニ付回答ニ接シ次第通知スヘシ(三)ニ付テハ先ツ目下滿洲國承認ニ關スル蘇側ノ態度ニ關シ承知シ度而シテ東支鐵道ノ買收ノ當事者トシテハ日本及滿洲國ヲ考ヘサルヲ得ス殊ニ露奉協定中ニハ支那ノ資本ヲ以テ買戻シ得トノ趣旨ノ規定有ル關係上或ハ滿洲國カ買（收）ノ當事者トナルヘク其ノ場合ニハ必然蘇側ノ滿洲國承認問題起ルヘキ處右承認問題ハ如何ナル狀態ニ在リヤト述ヘ

「カ」ハ同問題ニ付テハ廣田大使及松岡代表ニ申シタルト[3]

同様蘇側トシテハ同問題ノ重要性ニ鑑ミ未タ何等決定シ居ラスト答ヘ又滿洲國カ東支鐵道ヲ買收セントスル場合ニ付テハ法律上其ノ他複雜ナル關係アルヲ以テ今直ニ回答シ難キ旨答ヘタリ

以上會談ニ於テ本使ノ得タル印象ニ依レハ

(一)蘇支不侵略條約ニ付テハ「カ」ニ於テ進捗ヲ差控ヘシメ居ルモノトノ情報モアリ相當程度迄談合成立シ居ルモノト認メラルルモ蘇側トシテハ日本ノ態度ヲ多少懸念シ居ルモノノ如ク從テ日本ニシテ對蘇不侵略條約ヲ斷念スルニ至レリトノ見据付クニ於テハ勢ヒ支那ノ意ヲ迎ヘテ急遽該條約ノ締結ヲ完成セシムルヤモ計リ難キモノト認メラル

(二)通商條約乃至取極ニ付テハ蘇側ハ自ラ進ンテ提議スルノ形式ヲ避ケントスルモノノ如ク日本側ヨリ提議シ來ラハ之カ商議ニ應スヘシトノ態度ナルカ如シ

(三)滿洲ニ關スル諸問題ノ調整解決ニ付テハ蘇側ハ目下焦慮シ居ルモノノ如ク東支鐵道買收問題ノ如キ日本側ヨリ提議アリトセハ喜ンテ之ニ應シ或ハ其ノ機會ニ滿洲ニ關スル諸問題ニシテ日滿蘇間紛議ノ原因ト成ル可能性アル諸案件ニ付何等カ政治的取極ヲ爲シ進ンテ日蘇間不侵略條約商議ノ氣運ヲ釀成セントスル意圖アルカ如シ

右ノ如キ次第ニ付我方トシテハ東支鐵道買收ニ付經濟的ノミナラス政治的大局上ノ見地ヨリ此ノ際發議セラルルコト一策ナラスヤト思考ス

在滿大使ヘ轉電シ之ヨリ哈爾賓ヘ暗送セシメ在歐洲各大使ヘ暗送セリ

315

昭和8年5月25日　東郷(茂徳)欧米局長より
福田(庸雄)商工省鉱山局長他宛

北樺太利権事業などに対するソ連地方官憲の対日態度に関する大田大使の報告について

欧一機密合一八二三號

昭和八年五月廿五日

欧米局長　東郷　茂徳

福田商工省鉱山局長殿
寺島海軍省軍務局長殿
山岡陸軍省軍務局長殿
川上北樺太鉱業会社長殿

中里北樺太石油会社長殿

蘇聯地方官憲ノ對日態度ニ関スル件

本月十二日附欧一機密合第一六四一號拙信ニ関シ今般在蘇聯邦大田大使ヨリ別紙寫ノ通電報アリタルニ付御参考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先　商工省、海軍省、陸軍省、北樺太鉱業及石油会社

(別紙　五月二十二日莫斯科來電第二七二號パラ寫取添付)

(別　紙)

五月廿二日　本省着

内田外務大臣宛在莫斯科大田大使發電報

北樺太「ソヴィエト」官憲ノ對日態度ニ關スル亞港發閣下宛電報ニ關シ

本月二十日酒匂(カワ)參事官ハ極東部長「カズロフスキー」ト會見ノ際我カ對蘇事業ニ關與スル日本人ノ多クハ本邦財界及政界ノ有力者ナル關係上之等ノモノノ意見カ日本ノ一般對蘇感情ニ意外ナル影響ヲ及ホシ居レルモノト認ムル旨説明ヲ加ヘタル上前顯電報ノ趣旨ヲ傳ヘ之等ノ事實ハ地方的些事ニ似タルカ如キモ現地ニアル關係日本人ハ勿論利權事業ニ關係アル本邦有力者ノ對蘇惡感情ヲ不必要ニ挑發スルノ結果ヲ招來スルモノニシテ大局上蘇側ニ甚シキ不利ヲ與フルモノト思考ストノ趣旨ヲ述ヘ蘇側中央官憲ヨリ地方官憲ニ對シ右戒飭方ニ關シ嚴達ヲ發セラレ度キ旨篤ト懇談セルニ之ニ對シ「カズ」ハ元來蘇聯邦ハ完全ナル中央集權主義ヲ採リヲリ下級地方官憲ハ專ラ中央ノ指令ニ依リ行動スルニ過キサル處蘇聯邦カ根本ニ於テ親日政策ヲ採リ居ルコトハ今更縷言ヲ要セス最近ニ於ケル東支鐵道問題等ニ徵シテモ明カナル處ニシテ右ハ既ニ日本側ニ於テモ充分諒解シ居ラルルモノト信ス從テ假ニ地方官憲ノ行動ニシテ右「ライン」ニ副ハサルカ如キ逸軌ノ事實アルヲ認メタル場合ニハ中央ニ於テ之カ是正ノ爲適當且有效ナル措置ヲ採ルニ吝ナラサルハ勿論ノ次第ナルカ酒匂(カワ)參事官ノ述ヘタル事實ニ關シテハ未タ亞港ヨリ何等ノ報告ニ接シ居ラサルニ付調査スルコトトスヘシ蘇側ニ於テ北樺太利權事業ヲ壓迫スルカ如キ意思毫末モナキハ今更事新ラシク申述フ迄モ無キ次第ニシテ現ニ石油利權ニ關シテハ最近稻石代表ト當該蘇官憲ト

ノ間ニ圓滿ナル商議進行中ナルヤニ承知シ居レリ事情前述ノ次第ニ付利權事業ニ於テノミナラス漁業問題等ニ關シ地方官憲ニ於テ偶々脱線的ニ日本ノ對蘇惡感情ヲ唆ルカ如キ行動アリトスルモ之ヲ以テ蘇側ノ排日政策ヲ批判セラレサランコトヲ希望スト答ヘタルニ依リ酒匂(カネ)參事官ハ此ノ上共右中央ノ公正ナル意思カ地方ニ徹底スル樣措置アリタキ旨要望シ置キタル由

316　昭和8年5月31日　在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛(電報)

カラハンに代りソコリニコフ外務人民委員代理が極東問題を管掌することとなった内部事情について

モスクワ　5月31日後発
本　省　6月1日前着

第二九六號
往電第二八九號ニ關シ[1]
今回「カラハン」カ表面ニ立チ對日支交渉ノ衝ニ當ラサル事トナレル内情ニ付テハ（當國外務部ノ重要事務ハ總テ同部ノ參與會議ノ議ヲ經ル次第ニ付「カラハン」カ今後モ極東關係事務ニ關與スヘキハ勿論ナリ）種々ノ取沙汰有ル處(一)或ル者ハ「カラハン」カ本使ニ語レル如ク事務分擔ノ公平ヲ期スル爲卽チ近時當國ノ對東方諸國關係事務繁多トナレルニ鑑ミ從來「カラハン」ノ主管セシ東方部ヲ近東及極東ノ兩部ニ分チ新ニ「ソコルニコフ」（駐英大使ノ前ニ財務人民委員タリシ事アリ）ヲ外務人民委員代理中ニ加ヘ（「ソ」カ三月二十二日附ヲ以テ外務部參與ニ任命セラレ居タル事ハ四月三日附拙信報告ノ通）極東部ヲ管掌セシメ「カラハン」ヲシテ近東諸國關係ニ充分活動セシムル事トナレルモノナリトシ(二)或ル者ハ近時「リトビノフ」カ其ノ勢力ヲ增シ來レルニ伴ヒ故「チチエリン」直系ニ屬スル「カラハン」トノ折合漸次不良トナリ殊ニ最近對支政策及東支問題ニ關スル兩者ノ意見扞格シ激論サヘ爲シタル事有ル處（往電第二四五號「リ」ト「ウオロシーロフ」ト激論有リタリ「カラハン」ハ「ウオ」系ニ屬ス）「スターリン」ハ「カラハン」カ此ノ際東支賣却ニ反對スルヲ聞キ大局ニ通セサルモノナリトシ「カラハン」ヲ閑職ニ移スニ至レルモノナリトシ(三)又或ル者ハ本月二日「リ」カ日本側ニ對シ東支賣却ノ提議ヲ爲セル直前支那大使カ「カラハン」ヲ往訪シ右賣却問題ヲ質シタルニ「カラハン」ハ該問題カ未タ具體化シ居ラサル旨ヲ答ヘタル事實有ルヤニテ支那ハ其ノ後事實ノ眞相ヲ知ルニ及ヒ本國ニ對シテノミナラス當國ニ於ケル其ノ面子ヲ踏潰サレタリトナシテ激怒シ其ノ旨「カラハン」並ニ記者團ノ一部ニ洩ラシタル由ナルカ往電第二六八號報告ノ第二回目抗議ヲ爲セル數日前表面私用ト稱シ伯林方面ニ向ヒ當地ヲ去レルニ至レル事情有リ（目下巴里ニ在ル由）旁々「カラハン」カ引續キ直接對支那關係ノ交渉ニ當ル事ハ面白カラサル成行トナレルニ依ルモノナリト觀測シ居レリ

右ハ孰レモ眞相ノ一端ヲ傳ヘ居ルモノノ如ク前記(一)ノ如キ事情有リタル際東支問題ニ關シ(二)及(三)ノ如キ出來事起リタル爲「リ」ノ壽府出張前ニ本件ノ決定ヲ見タルモノト推察セラル[2]

尙右ニ關聯シ蘇側今回ノ東支賣却提議ハ其ノ時期方法等ニ付當國内部ニ相當議論有リタルモノノ如ク曩ニ「カラハン」ハ本使ニ對シ東支カ相當收益有ル鐵道ナリト應酬セシニ反シ「リ」ハ近來同鐵道カ損失ヲ重ネ居レル旨ヲ極メテ卒直ニ述ヘタル事實ノ如キ此ノ間ノ消息ヲ傳フルモノト推測セラルル處元來右提議ハ往電第二四五號「レニン」ノ遺訓ニ基ク措置ニシテ「スターリン」モ當然之ニ贊同シ居ルモノト認メラレ主義ニ忠實ニシテ率直ナル行動ヲ執ル事ニ決定セラレタル結果ナルカ如ク從テ蘇側ハ賣却商議開始ノ場合ニモ或ハ率直ナル態度ヲ以テ臨ムヤニ推測セラレサルニモ非ス此ノ點ハ相當我參考ニ値スルモノト思考ス

滿、哈爾賓、支へ轉電セリ

317　昭和8年6月20日　倉知(鉄吉)対露輸出組合理事長より内田外務大臣宛

北滿鉄道買收問題を期に対ソ輸出の増進方請願について

（接受日不明）

拜啓陳者北滿鐵道讓渡ニ關スル關係國ノ會商ハ帝國政府ノ斡旋ニヨリ近ク東京市ニ開催セラルヽコトヽ相成誠ニ御同慶ノ至リニ存候東洋平和ノ上ヨリ申シテ是非本問題ノ圓滿ナル解決ヲ希望スル次第ニ候得共更ニ又日蘇ノ經濟關係ヨリ見ルモ同樣ノ感ニ不堪候弊組合員ハ平素直接日蘇貿易ニ

從事致居候タメ本問題ノ成行ニ就イテハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ從テ之ニ關スル多少ノ希望ヲ懷ク者尠カラズ候間弊組合ノ關スル限リニ於テ本問題ニ對スル卑見ヲ陳述シ別紙ノ通リ貴覽ニ供シ申候間意ノアル所ヲ御忖度被下希望ノ達成ニ御助力賜リ候ハバ本懷之ニ過ギズ候　敬具

昭和八年六月二十日

東京市麴町區内幸町一丁目十七番地

對露輸出組合

理事長　倉知　鐵吉〔印〕

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

日蘇ノ經濟關係ニ屬スルモノニテ漁業及石油ト石炭ノ如キ企業ハ條約又ハ利權契約ニ依リテ事業ノ經營比較的安定スル所アリト雖モ貿易ニ至リテハ全ク之ト異リ、彼我ノ需給關係ハ双方ノ狀勢及第三者ノ競爭等ニ依リ常ニ消長ノ甚シキヲ免レズ。殊ニ貿易獨占ヲ國策トスル蘇聯邦ノ場合ニ於テ然リトス。コヽヲ以テ日蘇貿易ノ發展伸暢ハ、絶エズ彼我ノ現實狀勢ヲ察シ、機會アルゴトニ貿易促進ノ方法及條件ヲ作ルコトニ努力セザルベカラズ。是レ弊組合ガ組合存立ノ使命ニ顧ミ、終始一貫取リ來レル方針ナリトス。

大正十四年日蘇兩國ノ間ニ國交復舊スルヤ、兩國ノ經濟關係ハ茲ニ面目ヲ一新シテ貿易モ亦着々發展ノ緒ニ就ケリ。然ルニ對蘇輸出ハ蘇國側ニ於テ年一年長期ノ取引ヲ希望スルガ故ニ、我國當業者ノ金融困難トナリ延テ輸出ノ增進ヲ阻害スル傾向アリタルヲ以テ、弊組合ハ各國ノ對蘇輸出促進策ヲ研究シ、輸出補償制度ノ必要已ムベカラザルヲ認メテ之ガ實現ヲ政府ニ陳情シタルモ機容易ニ熟セズ、幾多ノ迂餘曲折ヲ經テ漸ク昭和五年八月ヨリ實施セラルヽコトヽナレリ。

弊組合ハ右實施後モ屢〻政府ニ陳情シテ對蘇輸出補償ノ金額增加ニ努力シ、幸ヒ政府ノ諒解ヲ得テ漸次所期ノ目的ヲ達セントスルニ至リシガ、飜テ日蘇貿易ノ趨勢及現況ヲ觀レバ、一時好望ヲ思ハシメタル同貿易モ、最近頓ニ減退ノ徵ヲ示シ、關係當業者ヲシテ斟(卻カ)カラズ失望セシメツヽアリ。今駐日通商代表部ノ發表ニカヽル日蘇間ノ輸出入統計ヲ掲記シテ參考ニ供スレバ左ノ如シ。

年度	我國ヘノ輸入	我國ヨリノ輸出
	千圓	千圓
一九二六―七年	一二、六八四	五、八九九
一九二七―八年	一九、五九五	一〇、一四三
一九二八―九年	二一、七六四	一五、一二二
一九二九―三〇年	二〇、八八四	二五、三六六
一九三一年	一五、九二〇	八、七五九
一九三二年	一一、八五二	五、八八〇

卽チ日蘇貿易ハ一九二九―三〇年ヲ峠トシテ逐年減退ニ向ヒ、殊ニ本年ノ對蘇輸出ノ如キハ未曾有ノ不振ヲ極メ、現在ノ趨勢ヨリ察スレバ本年ハ結局輸入超過ニ終ルノ外ナカラントス。依テ弊組合ハ各方面ノ材料ヲ蒐集シ、輸出不振ノ原因那邊ニ存スルヤヲ調査シタルガ、ソノ結果ニ依レバ右原因ト見ルベキモノ固ヨリ一二ニ止ラザレドモ、就中最大ノ原因ハ蘇聯邦ノ輸入手控ヘニアリトナサザルベカラズ。而シテ蘇聯邦ノ輸入手控ヘヲナスニ至リシ理由ハ、昨年末ヲ以テ一段落ヲ告ゲタル第一次五箇年計劃ノ打切リニアリト稱セラルルモ、蘇聯邦ノ實情ヲ仔細ニ考察スレバ、單ニ之ノミヲ理由ト見ル能ハザルモノアリ、蓋シ同國ハ累年支拂期限ノ長期ヲ要望シテ只管輸入ニ努力シタル結果、近時ソノ決濟ノ苦痛漸ク加重シ來レルモノアルハ疑ヲ容レザル事實ナリ。卽チ輸入ノ必要ナルコト今モ尙依然トシテ舊來ニ異ラズト雖モ、一度決濟ノ點ニ想到スレバ此上ニ無暴ナル輸入ヲ繼續スル能ハズトイフヲ以テ、同國當面ノ眞相ト觀測シテ太過(大カ)ナキガ如シ。惟フニ此種ノ事實ハ、蘇聯邦ノ手許潤澤トナルニ從ツテ自ラ解消スベキモノナリト雖モ、ソレマデノ過渡期ニ於ケル對蘇輸出ヲ如何ニスベキヤニ就イテハ、此際別ニ又考慮ヲ要スルモノアリト信ズ。

カヽル時機ニ當リ關係國ノ間ニ北滿鐵道讓渡問題ノ交渉進展シツヽアルハ、對蘇輸出ニ關心ヲ有スル者ノ等シク興味ヲ以テ期待スル所ナリ。蓋シ本問題ノ解決ハ單ニ東亞ノ政治關係ヲ根本的ニ安定セシムルノミナラズ、我國ノ對蘇輸出ニ一道ノ光明ヲ投ジ、延テソノ經濟關係ニモ良好ナル影響ヲ齎スベキハ必然ノ勢ナリ。是レ吾人ガ本問題ノ圓滿ナル解決ヲ切望シテ已マザル所以ナリトス。故ニ今右ニ關スル吾人ノ要望ヲ披瀝シ、關係國ノ間ニ交渉ノ具体化シタル場合、吾人ノ要望實現ニ何分ノ御助力ヲ請ハント欲スル次第ナリ。

一、北滿鐵道讓渡ニ對スル代償支拂ノ一部ハ物資ヲ以テセラレタキコト

代償額及ソノ支拂方法ニ就イテハ、今後關係國ノ間ニ接衝(折カ)アルモノト信ズレドモ、吾人ノ希望スル所ハ右支拂ノ一部ヲ物資ニ依ツテナスノ件ナリ。蓋シ是レ本問題ヲ對蘇輸出ニ關聯セシムル唯一ニシテ絶好ノ機會ナレバナリ。

二、右支拂ニ對シテハ我國ノ物資ヲ以テスルヲ考慮セラレタキコト

本問題ノ交渉當事者ハ虞ク滿蘇兩國ナルベシト察セラルルモ、蘇國ノ需要スル物資ハ我國ノ製品ニシテ、我國モ亦之ニ依ツテ輸出不振ヲ打開シ、同時ニ我國商工業界ニ利益ヲ均霑セシメント欲スルモノナレバ、代償支拂ノ條件ヲ考慮セラルル場合、我國ノ物資ヲ以テ之ニ充當シ得ルヤウ特ニ御配慮アランコトヲ切望スル次第ナリ。

三、右物資ノ需給ハ蘇聯邦側ト我國個々ノ當業者トノ間ノ自由取引ニ委セズ我國ニ特種ノ機關ヲ設ケ之ヲ以テ取引ニ當ラシメラレタキコト

貿易獨占ヲ國策トスル蘇聯邦トノ取引ハ、從來ノ經驗ニ徴スレバ常ニ彼ニ有利(ニ欠カ)シテ我ニ不利ナリ。弊組合ハ久シク此點ヲ憂ヒ適當ナル方策ヲ攻究シタルモ、現在ノ實情ヲ以テハ實行ノ可能性アル良策ナキガ如シ。北滿鐵道讓渡問題ニ關聯シ若シ如上ノ希望ニシテ實現セラルルコトアランカ、蘇聯邦側ハ益々ソノ常套手段ヲ發揮シテ我國當業者ヲ飜弄シ、當業者モ亦之ヲ承知シツヽ術策ニ陷リ、ソノ結果我國ノ不利益ヲ蒙ルコト僅少ニアラザルベシ。コノ弊ニ備フル意味ヨリ云フモ、又豫テ必要ヲ痛感シツヽアル我方ノ統制實現ニ一新例ヲ開ク意味ヨリスルモ、コノ點ニ就キ特ニ深甚ナル御考慮ヲ請ハント欲ス。

以上

318

昭和8年7月18日　東郷欧米局長より
牛丸(福作)海軍省軍需局長他宛

北樺太利権問題に関する大田大使とソコリニコフ間の会談大要について

欧一機密合第二五一四號

昭和八年七月拾八日

欧米局長　東郷　茂徳

牛丸海軍省軍需局長殿

福田商工省鉱山局長殿

中里北樺太石油会社長殿

川上北樺太鉱業会社長殿

北樺太利権事業ニ関スル件

本件ニ關シ今般在莫斯科大使館ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付右茲ニ送付ス

本信送付先　海軍省軍需局、商工省鉱山局、北樺石(太欠カ)油会社

（別紙）

七月十七日着

内田外務大臣宛在莫斯科大田大使發電報

北樺太ニ於ケル利權事業ニ付十五日「ソコルニコフ」ニ對シ本使ヨリ右ハ直接間接我カ財界政界ノ有力者カ關係ヲ有シ是ニ對スル蘇側ノ措置ハ日本ノ對蘇感情ニ甚大ナル影響ヲ與ヘ居ル次第ニシテ地方官憲カ從來屢該事業ヲ壓迫スル態度ヲ採レル事例アルヲ聞クハ甚タ遺憾ナルヲ說キ又石油利權當事者ハ試掘期間ノ大半既ニ經過シタル爲其ノ延長方ヲ希望シ蘇側當該官憲ニ對シ代表者ヲ通シ右申出ヲナシタル筈ナルカ右ハ從來ノ同事業ノ業態及一年ノ内試掘ニ從事シ得ルハ僅ニ二ケ月ニ過キサル事情ニモ鑑ミ至極尤ナル要求ト考ヘラルルノミナラス有力ナル地域ノ發見ハ蘇側ニモ利益ヲ齎ス次第ナルニ付蘇側ニ於テ右延長方ニ關シ充分好意的考慮ヲ加ヘラレンコトヲ期待スト述ヘタルニ「ソ」ハ地方官憲ノ具体的不當措置ノ事例起ラハ申出ラレタク取調ノ上之ニ對シ適當ノ措置ヲ講スヘク又試掘期間延長ニ關シテハ研究シ置クヘシト答ヘタリ右試掘期間延長方ニ付テハ機會ヲ見テ今後モ尚交渉ヲ續クル積リナルカ右不取敢報告ス

319

昭和8年7月28日　在オハ村瀬(悌二)分館主任より
内田外務大臣宛

オハにおける日本人労働者に対する共産主義宣伝状況について

本機密第九八號　（8月16日接受）

昭和八年七月二十八日

在「オハ」

分館主任　村瀬　悌二〔印〕

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

當地ニ於ケル本邦勞働者ニ對スル赤化狀況ニ關

シ報告ノ件

當「オハ」ニ於ケル我石油利權企業ノ發展ニ伴ヒ同企業傭入本邦勞働者ノ渡來モ亦逐年增加シ來リ現在約一千八百名ヲ算スルニ至リ「ソ」聯邦側ニ對シ赤化宣傳ノ有力ナル機會ヲ與ヘ居レリ

然レトモ之等本邦勞働者ニ對スル赤化手段ハ近來稍々趣ヲ代ヘ從來ノ如キ露骨極端ナル態度ヲ改メ尠クトモ表面上ハ大ニ緩和セラルルニ至レリ

從來ノ對日宣傳ハ累次報告ノ通リ主トシテ當地「プロムコム」（石油勞働者組合利權企業鑛場委員會）委員タル本邦主義者及鮮人主義者之ニ當リ熾ンニ不穩印刷物ヲ頒布シ足繁ク勞働者宿舍ニ出入シ露骨ナル煽動的言辭ヲ以テ我石油會社ノ内情暴露乃至惡宣傳ヲナシ日本資本主義ヲ排擊シテ「ソ」聯邦ヲ讃美シ此ノ外或ハ利害關係ヲ以テ或ハ色仕掛ヲ以テ或ハ莫斯科留學等ノ好餌ヲ以テ誘惑ニ是努メ以テ本邦勞働者ヲシテヨリ多ク組合ニ加入セシメ前記「プロムコム」專屬委員トシテ實際運動ニ參與セシメント努力シ居リタリ（昨年ハ四名ノ本邦主義者ヲ出スニ至リ夫等ハ全部當地ヲ脫出シ組合運動研究等ノ爲浦潮ニ赴キタルカ内一名ハ最近當地ニ歸來シ「プロムコム」委員東洋勞働者指導係トシテ活動シ居レリ）

然ルニ昨秋頃ヨリハ前述ノ如ク從來ノ態度ニ相當變化ヲ來シタリ勿論赤化手段トシテハ從前ト殆ト變リナキモ表面其ノ態度頗ル穩當化シ不穩印刷物ノ頒布モ極ク稀トナリ勞働者宿舍往訪ハ依然行ハレツツアリト雖モ從來ノ極端ナル煽動的言辭ヲ止メ主トシテ利害關係（賃銀ノ値上ケ、勞働條件ノ改善等）ヲ以テ先ツ彼等ヲ誘惑セント試ミ居レリ卽チ會社ノ内情ニ幾分トモ通曉セル本邦主義者カ勞働者宿舍ヲ歷訪シテ彼等ノ希望乃至不平不滿ヲ聞キ置キ會社ノ手落チ或ハ團体契約ノ適用洩レ等ノ弱點ヲ利用シ「プロムコム」ノ力ヲ藉リテ會社側ニ强要シ以テ夫等ノ不平不滿ノ除却及希望達成方ニ盡力シ（而モ夫等ハ會社側ニ於テ容認セラレ勝ナル有樣ナリ）斯クシテ勞働者ノ歡心ヲ求メ之ニ接近セントシツツアリ

而シテ從來ノ如ク强イテ組合ニ加入乃至實際運動ニ參與方說得セントセス日本勞働者ヲ出來得ル限リ赤化シテ歸國セシメ日本内地ニ於テ大ニ活動セシメントスル新方針ヲ執リツツアルモノノ如シ

然レトモ本邦勞働者ハ「ソ」聯邦ニ於ケル言語ニ絕スル物資ノ窮乏狀態及一般「ソ」國民衆ノ慘狀ヲ實地ニ見聞セルヲ以テ徒ニ彼等宣傳員ノ口先ノ宣傳ニ乘セサルニ至リ寧ロ打算的ニ彼等ヲ利用セントスル傾向アリ他面「ソ」側亦漸次對本邦勞働者赤化宣傳ノ效果尠キヲ自覺セルヤニ見受ケラルルヲ以テ現在ノ處ハ別ニ本邦人ノ赤化ハ之ヲ惧ルルニ足ラサル狀態ニ在リト認メラル只茲ニ幾分注意スヘキハ「ソ」國ノ實狀ニ通セサル季節的勞働者ニシテ彼等ハ内地ニ比シ遙カニ良好ニ在ル當地ノ勞働條件或ハ勞働者保護制度ニ先ツ奇異ノ感ヲ抱キ右カ「ソ」聯邦ノ勞働法乃至政策ニ基クモノナルコトヲ知リテ之ヲ德トシ居レル際本邦主義者ノ巧言ニ乘セラルル惧ナキニアラサルヲ以テ之等ニ對シテハ相當警戒ノ要アル次第ナリ

右報告申進ス

本信寫送付先　在蘇聯邦　大田大使

在亞港　高山總領事館事務代理

320　昭和8年8月16日　在ハルビン森島(守人)総領事より在満州国栗原(正)臨時代理大使宛

ソ連共産党の対日工作など在ハルビン共産党員の時局談について

公領機密第四六四號　（接受日不明）

昭和八年八月十六日

在哈爾賓

總領事　森島　守人

在滿洲國

臨時代理大使　栗原　正殿

在哈蘇聯共產黨員ノ時局談ニ關スル件

本件ニ關スル當地憲兵隊長ノ通報別紙寫ノ通リ御參考迄送付ス

本信寫送付先

外務大臣

（別　紙）

哈憲高第一二九號

在哈蘇聯共產黨員ノ時局談ニ關スル件報告

昭和八年八月九日　哈爾賓憲兵隊長　島本　正一

旨要	邦字紙ノ一記者カ蘇聯共産黨員某ト時局ニ關シ會談セル際蘇聯共産黨員カ時局ニ關シ述ヘタル感想談ナリ

首題ノ件左記報告通牒ス

一、日本内地ニ於テハ共産黨員ノ大半カ檢擧セラレ佐野學以下黨ノ主腦者カ最近心境ニ變化ヲ來タシ「**コミンテルン**」ト絶縁ヲ宣言スルニ至レル事件ハ蘇聯共産黨員間ニ一大「**センセーション**」ヲ捲起シ「**コミンテルン**」幹部ノ誤謬失策ヲ痛擊シ主腦部ノ更送(逸カ)ヲ論議スルニ至レリ

一、「**コミンテルン**」カ最モ力ヲ注キ居タル獨逸共産黨ノ陣營ノ如キモ「**ヒツトラ**」ノ一擊ニ一週間ヲ支ヘ得スシテ壞滅シ今又日本共産黨領袖ニ絶縁ヲ宣言サレ「**コミンテン**」(ルカ)ノ無能ヲ遺憾ナク曝露セリ之レカ原因ハ片山潛ノ如キ現代日本ニ對スル認識ヲ有セサル者ノ獻策ヲ鵜呑ニ採用スル東洋ニ關スル智識ナキ幹部ノ誤謬ニ基クモノナリ一面日本共産黨領袖ノ片山ニ對スル反感モ手傳ヘルモノナリ從テ近キ將來ニ於テ片山ヲ退ケ現東京「**ソヴヱト**」大使秘書官「**ガウチコフ**」ヲ莫斯科ニ召還ノ上片山ノ後釜ニ据エ同人ノ新智識ヲ基礎トシテ對日工作ノ轉換ヲ計ルコト、セリ

一、然ラサレハ今日迄費シタル莫大ナル對日工作費ハ全然無意味トナリ殊ニ最近ニ於テ極東軍司令官「**ブリユヘル**」カ獻策セル飛行機ニヨル日本首要區域爆擊ヲ目的トスル日本共産黨員ノ利用工作計畫ノ如キハ日本官憲ノ黨員、大檢擧ニヨリ畫餅ニ歸シ之カ損害十万留ト稱サル然ノミナラス軍事上策戰ノ一部變更ヲ餘儀ナクサレルニ至レリ

一、對日戰勃發ノ場合ハ歐露ヨリ長途大軍ヲ西伯利亞ヘ向ケ輸送スルハ困難ニシテ飛行機ヲ以テ攻擊シ爆擊化學**バクラリヤ**(テカ)戰術ニ依リ敵ノ殲滅ヲ計ル外無ク現在之レカ準備ニ全力ヲ注キアリ

一、「**ブリユヘル**」將軍カ目下莫斯科ニ滯在シ居ルハ是等方策萬般ヲ中央ト打合ノ爲ナリ

一、哈爾賓ニ於ケル黨組織モ現今ハ「**スラウツキー**」總領事「**ルーデー**」北鐵管理局長同理事長代理「**バンドーラ**」ノ三人ヲ主領トシ「**ヱクスポートフレーブ**」ノ「**グリヤコフ**」北滿共産黨秘書「**ドウシコフ**」ヲ主要連絡員トシ五人組組織ノ下ニ活動ヲ續ケ居ルモ滿洲國官憲ノ壓迫甚シキ爲メ積極的行動ヲ取レス且ツ政策上一流人物乃至尖鋭部員ヲ後陣ニ退ケ居ル爲ト「**コミンテル**」(ンカ)幹部ニ確固

タル方計未タ建タス朝變暮改ノ指令ノ下ニ哈市共産黨上層組ハ滿洲官憲ヨリノ逮捕ヲ極度ニ恐レ殆ント有要工作ヲ爲シ得ス黨内一般ニ沈滯ノ狀態ナリ連絡關係ノ如キモ莫斯科直通ヲ廢シ「**ハバロフスク**」ヨリノ指令ヲ仰クニ至レリ

一、日蘇戰勃發前後ニ於ケル黨ノ工作トシテハ「**テロ**」宣傳等勿論(必カ)心要ナルモ日本人ノ國民性ヨリ斷スルニ對外戰勃發當時ニ於ケル彼等ノ愛國心敵概(慨カ)心ニハ何物モ對抗シ得サル可ク下手ナ工作ハ却テ愛國心敵概(慨カ)心ヲ高潮セシムルノミナリ然レトモ日本現在ノ財政狀態ヨリ推シテ日蘇開戰右半年ヲ經スシテ財政的破綻ヲ見ル可ク之ノ場合國際情勢ヨリスルモ借款ハ不能トナリ國民ハ重稅ニ苦シミ戰爭ニ對スル倦怠ノ結果政府ニ對シ恐嗟(怨カ)ノ聲ヲ發スル(ニ脱カ)至ル黨ハ之ノ機ヲ逸セス眞ノ後方攪亂ト政治的赤化工作ヲ起スモノニシテ現在國民ヲ指導スル人物荒木將軍並ニ財政方面ニ關シテハ内外ノ信賴ヲ集メ居リ又日本ノ財政危機ヲ良ク救ヒ得ル高橋藏相ノ暗殺モ考慮サレ得ル處ナリ

一、日本ハ對蘇戰ニ於テ必ス「**バイカル**」湖ノ線ニ進出ヲ急ク可シ然レトモ冬期ノ作戰ニ不得手ナル日本軍カ同線ニ進出占據セント欲セハ少クトモ七月末迄ニハ滿洲國内ニ總テノ戰鬪準備ヲ完了スルニアラサレハ不可能ナリ之レヨリ觀察スルニ本年中ニ日蘇戰ノ勃發ハ起ラサルモノト思料サル蘇聯側トシテモ列强ノ一國ヲ事實上ノ同盟國トシテ引入レサル限リ現在ノ内情ヨリシテ絶對々日戰ハ不可能ナル狀態ニ在リ從ツテ是レカ對策ニ腐心シ目下米「**ソ**」提携ニ凡ユル手段ヲ講シツツアリ西伯利亞ノ利權ヲ區劃的ニ米國ニ與ヘ米國ノ資本ニヨリ産業ノ開發ヲ計ルト同時ニ日本カ同方面ニ進軍スル場合ハ日米戰ヲ誘發セシム可ク畫策中ナリ現ニ米國政府ハ「**ソヴヱト**」承認ニ傾キツツアリ、世界政局ノ動キヨリシテ今直チニ承認スルハ相互ノ爲メ策ノ得タルモニ(ノ欠カ)アラサルヲ以テ六ヶ月後ニ承認ス可ク默契成立セリト言フモ過言ナラサル狀態ニアリ承認後兩國ヲ經濟的ニ緊密ナル關係ニ置ク可ク商議中ナリ

一、北鐵讓渡ニ關スル東京會議ノ如キ米國ノ蘇聯承認迄延引セシムレハ成功ナリ

日本ノ諸新聞ハ米大統領ノ石井全權ニ對スル聲明ヲ以テ日本外交ノ成功ノ如ク書キ立テ居ルモ「**ルーズベルト**」

ハ日本外交官ヲ奔弄シ居ルモノニシテ事實日本ノ外交ハ現代世界政局ニ於テハ大失敗ヲ招キアリ其ノ拙劣ナル實ニ啞然タラシムルモノアリ世界經濟上ノ觀點ヨリスルモ明日ノ市場ハ支那及ヒ蘇聯ナリ列强カ之ノ市場獲得ニ狂奔シ凡ユル術策ヲ弄シツツアル時期ニ日本ハ如何ナル外交的對策ヲ講シタルヤ

一、聯盟脱退後ニ於テ大亞細亞主義ヲ叫ヒ白人ヲ「**ボイコット**」セントシテ却ツテ經濟的ニ日本ノミカ「**ボイコット**」サレントシアル日本ノ大亞細亞主義ハ滿洲國ニ於テ既ニ行詰リツツアリ之ノ間ニ列强ハ中支ニ飛躍シ新聞紙上ニ宋子文ノ借款交渉カ盛ニ報道サレアルハ此ノ間ノ消息ヲ物語ルモノナリ日本外交ノ失策ハ「**ソヴエト**」外交ヲ有利ニ導ク可能性多キヲ以テ其點日本外交官ニ謝意ヲ表スルモノナリ

一、日本ノ大亞細亞主義ハ白系露人迄モ離反セシムルニ至レリ最近迄反蘇團体トシテ有力ナル米國ノ支持ヲ有スル「**ミリユウコフ**」ヲ首領トスル世界ニ散在スル白系露人ノ避難民協會ノ如キモ日本ニ西比利亞ヲ占領セシムルヨリモ之レヲ赤色政權下ニ置ケハ何時カハ自分等ノ手ニ還ルモ一度日本ノ手中ニ歸セハ永久ニ歸ラサルヲ以テ日蘇開戰ノ際ハ同人種タル「**ソヴエト**」ニ味方ス可シトノ雰囲氣ヲ創ルニ至レリ「**ソヴエト**」トシテモ抗日作戰上非常ニ有利ナル團体ト提携シ得ルニ至レリ、最近哈爾賓ニ於テ白系團ノ「**フアシヨ**」派王黨派「**コザツク**」團体ノ三派合同カ日本側ノ肝入リニヨリ成立ヲ見タルモ之ニ對シ全哈白系露人ノ約半數ヲ擁スル「**カラコリニコフ**」ヲ首領トスル露西亞避難民協會カ對抗シ得背後ニ極東西比利亞ニ八万五千ノ赤衛正規軍カ控ヘ居ルヲ以テ前述三派合同ノ如キハ意ニ介スルニ足ラス

一、關東軍司令官武藤元師(帥カ)薨去サレ後任ハ菱刈大將ニ決定セルカ吾人共產黨員ハ武藤元師(帥カ)ノ薨去ニ深ク哀悼ノ意ヲ示シ同時ニ菱刈大將ヲ大イニ歡迎スルモノナリ故元師(帥カ)ハ青年將校時代ニ露西亞駐在武官タリシコトアリ又革命當時ハ西比利亞ニ出征シ露西亞事情ニ明ルク從ツテ政治的ニモ軍事的ニモ如何ナル道ヲ辿ツテ對蘇政策ヲ行フヘキカヲ良ク知リ居タリ之カ爲メ「**ブリユヘル**」將軍以下竊ニ恐ヲ爲セルカ沈默ノ將軍ハ遂ニ沈默ノ眠ニ入リ吾人モ嚴肅ヲ感スルモノナリ

一、菱刈大將ハ豪放磊落野人將軍トシテ其ノ名高キタケニ單ナル戰鬪將軍トシテ共產黨ニハ寧ロ樂ナル相手ナリ部下參謀連ノ支援アルトスルモ無言將軍ニ比スレハ吾人ハ怖ヲ拘(抱カ)カス

321　昭和8年9月3日　在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛(電報)

時節に鑑み日ソ実業家・専門家の相互訪問視察の有効性につき意見具申

付　記　八月十九日付、陸軍省作成「日『ソ』産業視察團ノ交換ニ關スル陸軍ノ態度」

モスクワ　9月3日後発
本　省　9月4日前着

第四五三號

貴電[1]第二三九號ニ關シ

一、本年七月當國工業地帶ヲ視察セシ住友ノ一重役及同會社ノ技師等ハ實地檢分ノ結果當國產業ノ將來ニ於ケル發展ノ可能性並ニ當國經濟制度ノ利弊等ニ付豫想外ニ有益ナル觀測ヲ爲シ得タル旨本使等ニ談話セルコトアリ右ハ當國產業ノ進路ヲ洞察スル上ニ多大ノ參考トナレル次第ナルカ斯ル實業家及技術者ノ視察旅行カ延ヒテ兩國間通商增進ノ上ニ效果アルヘキハ勿論視察者ニ對シテノミナラス其ノ觀察談ヲ聽取スルモノニ對シ當國產業ノ將來及我產業ノ外國競爭對應策並ニ所謂統制經濟ノ理論ト實際ニ付有益ナル見解ト判斷トヲ與フルモノナルハ言フ迄モ無キ處ニシテ右ハ本省ニ於テ主義上本件ニ付贊成ナリトセラルル所以ナルヘキ處實行問題トシテ曩ニ「トロヤノフスキー」氏ノ言及セシ山本条太郎氏ノ如キヲ所謂經濟使節トシテ派遣セラルル場合ニハ相當ノ費用ヲ要シ豫算ノ關係上急速實現困難ナルヘキモ我民間有力者中ニハ蘇側カ便宜供與方保障スルニ於テハ我政府ヨリ金錢上ノ補助ヲ受クルコト無シトスルモ進テ視察ヲ希望スル向アルヘキヤニ認メラル從テ例ヘハ日露協會ノ如キ機關ヲシテ斯ル有志ノ一團ヲ組織セシメ之ニ本省ヨリ露語ニ通スル屬官一名ヲ同行セシメ當地方及工業地帶方面ノ視察ニ際シテハ更ニ當館ヨリ一二名同行セシムルカ如キ方法ヲ講セラルルニ於テハ格別ノ豫算ヲ俟タスシテ實行シ得ルヤニ思考セラル此ノ外昭和五年我紡績關係業者ノ行

ヘル視察旅行又ハ前記住友重役一行ノ場合ノ如ク特定事業又ハ會社關係者ノ蘇聯視察ヲ勸奬セラルルコトノ如キモ一案カト存ス

二、[2]蘇側專門家ノ本邦視察ニ付蘇側ニ於テハ我カ製品中歐露ノ需要ニ充當スヘキモノアラハ我國トノ通商增進ニ寄與スル處大ナルヘシトナシ主トシテ此ノ點ヲ考究スル爲進ンテ相當ノ專門家ヲ派遣シ度キ希望ヲ示シ居レル次第ナル處輸出促進ノ爲ニハ海外ニ旅商ヲ派遣シ又ハ商品陳列所ヲ設置シテ迄商品及產業ノ紹介ニ努メ殊ニ對蘇輸出ニ付本春手形補償額限度ヲ增シ期間ノ延長ヲサヘ認メタル我カ國トシテ斯ル視察團ノ本邦來訪ハ大イニ歡迎スヘキ筋合ニシテ右來訪ノ結果ハ我カ發達セル工業中ニハ歐米ノ夫レニ優ルモノアルヲ蘇側ニ紹介スルコトトナリ延イテ或種物資ノ歐露輸出ヲ促進スルニ至ルヘク且ツ蘇側ニ敬日感情ヲ與フルコトトナルヤニモ認メラル右ニ付人選等ニ關シ考慮ヲ要スレハ豫メ我方ヨリ腹藏無キ所見ヲ蘇側ニ通報シ以テ双方ニ於テ充分意思ノ疏通ヲ計リ置クニ於テハ何等面白カラサル結果ヲ招クコト無キカ如シ依テ右ニ關シテハ必スシモ我カ視察團トノ交換ノ意味トセス蘇側ヲシテナルヘク速ニ實行セシムル樣仕向クルコト適當ト思考ス

三、[3]近時蘇側カ極東ノ軍備ヲ着々充實シツツアル事實モアリ日蘇關係著シク緊張シ居ルカ如ク認メラル右蘇側ノ行動ハ主トシテ我國ヨリ不侵略條約ヲ拒否セラレ東支鐵道ニ壓迫ヲ受ケ更ニ同鐵道ノ讓渡商議ヲ見ルニ至レルモ同鐵道ノ滿洲側ニ依ル實力接收說並北樺太及沿海州ノ賣却說等ノ爲ニ刺戟セラレタルモノニシテ對日攻勢ヲ執ルニアラスシテ萬一ノ場合ノ防守ニ力メ居ル結果ト認メラルルモ當國言論機關中ニハ蘇側ノ平和政策ハ却テ日本ノ對蘇進擊ノ氣配ヲ高メタルニ鑑ミ蘇側モ對日態度ノ改變ニ付考慮スヘキナリトノ趣旨ヲ論スルモノスラアリ又當國民衆藝術ノ一ニシテ我國ノ萬歲ニ類スル早口藝人カ「日本帝國主義軍隊ハ西比利亞占領ヲ企圖シ居レルカ彼等ハ同地方ノ極寒カ彼等ヲ凍死セシムヘキヲ認識シ居ラス」ト說キ聽衆ノ喝采ヲ博シ居レルカ如キ例モアリ是等ハ對日感情ノ尖銳化ヲ物語ルモノト解スヘク更ニ蘇側ハ九月二日伊國トモ不侵略條約及中立條約ノ締結ヲ爲スニ至レルカ斯ノ如ク西方諸國トノ平和維持ニ努ムルハ東方ニ於ケル危機ヲ豫想セル防禦的政策ト認メラレ（當國ノ軍備及軍當局ノ意氣等ニ付テハ往電第二四五

號參照アリタシ）他面我國內ニ於テモ對蘇戰爭ノ不可避ヲ唱フルモノアルヤノ趣ナルヲ以テ斯ル緊張ノ爲如何ナル事變ノ發生ヲ見ルニ至ルヤ計リ難キカ如シ從テ斯ル雰圍氣ノ裡ニ於テ產業視察團ノ交換ノ如キハ時宜ニ適セサルモノナリトノ說アリ得ヘキモ本使ニ於テハ我國トシテハ內外ノ狀勢ニ顧ミ差當リ滿洲國ノ政治經濟的工作ニ力ヲ盡スヘク蘇側トハ平和政策ヲ維持スルヲ以テ得策ナリト確信スル次第ニシテ之カ爲ニハ日蘇通商增進ニ付凡ユル工作ヲ講スヘク本件視察團交換ノ如キハ其ノ一方策トシテ適切ナルノミナラス我實際家ヲシテ當國事情ヲ視察セシメ其ノ觀察ヲ綜合研究スルコトハ蘇ニ對シテ我カ何レノ政策ヲ執ル場合ニ於テモ甚タ必要且有益ナリト認ム

四、[4]更ニ又近時英、米、伊、波、西ノ諸國カ其ノ對蘇通商ニ多大ノ關心ヲ示シ又佛ノ「エリオ」一行カ今回當國ヲ訪問シ工業地帶方面ヲ視察セルハ通商發展ノ可能性研究ノ爲ナリト一般ニ觀察セラレ居ル事情モアリ旁自主的經濟外交ニ依リ商權擴張ノ急務ヲ提唱スル我國カ其ノ實行ノ一トシテ本件ノ實現ニ努ムルコトハ寧ロ當然ノ措置ト云フヘク本件ニ就テハ近ク「ソコリニコフ」ト會見ノ機會ニ於テ話頭ニ上ルコトアルヘキニモ鑑ミ以上ノ卑見ヲモ今一應參照セラレ本件ノ急速實現方ニ付御再考ノ上何分ノ結果御回電アリ度シ

（付　記）

日「ソ」產業視察團ノ交換ニ關スル陸軍ノ態度

（欄外記入一）日「ソ」產業視察團ノ交換ヲ申出テタル「ソ」國ノ眞意ハ單ナル通商ノ增進ニアラスシテ之レニヨリ日本ノ對「ソ」輿論ヲ緩和シ以テ「ソ」國ノ對極東政策ノ遂行ヲ容易ナラシムル他帝國ノ軍事工業調查ヲモ含ムヘキハ必然ナルヲ以テ陸軍トシテハ兩國產業團ノ交換ハ不同意ナルモ四圍ノ狀況上已ムヲ得ス本件ヲ實施セントスルニ於テハ次ノ條件ヲ具備セシムルヲ要ス

（欄外記入二）

(1) 兩國產業團ノ視察個所ノ選定ニハ特ニ注意ヲ加ヘ彼ニ一方的利益ヲ與ヘサルコト

(2) 我產業團ノ人選ヲ愼重ニシ且之レニ適當ナル將校又ハ陸軍技師ヲ加フルコト

(3) 彼ノ我產業視察ニ方リテハ我軍事關係事項ニ關シ嚴ニ秘密確保ノ手段ヲ盡スコト

（欄外記入一）
軍務局原中佐ヨリ受取　八、八、一九
（欄外記入二）
政府ノ補助ナク民間限リニテ赴ク場合ニハ之ヲ阻止セムトスルニ非ル由

322　昭和8年9月(16)日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛（電報）

日ソ間諸懸案改善のため日ソ不可侵条約問題の再検討および日ソ通商条約取極めの交渉を開始すべき旨意見具申

モスクワ　発
本　省　9月16日前着

第四六二號

一、[1]近時蘇側カ極東方面ノ軍備ヲ着々充實シツツアル事實ニ伴ヒ日蘇關係著シク緊張シ來レル模樣ナル處元來蘇側トシテハ滿洲ニ進出セル我國ヨリ不侵略條約ノ締結ヲ回避セラレタルト共ニ我國輿論中ニハ我國体ニ脅威ヲ與フル蘇聯膺懲ノ要ヲ說キ或ハ資源公平享有ノ見地ヨリ蘇ヲシテ沿海州乃至「バイカル」以東ヲ放棄セシムルノ要ヲ說キテ日蘇開戰ヲ主張シ或ハ兩國戰爭ハ只時期ノ問題ナリトテ其ノ不可避ヲ唱フルモノ等アリタルニモ鑑ミ我國ニ對シ多大ノ脅威ヲ感スルニ至リ「スターリン」ノ公言セル如ク五年計畫ノ一部ヲ犧牲ニシテ極東ノ事態ニ備フルト共ニ對日諸案件ノ圓滿解決ニ努メタルカ次テ滿洲國ノ東支鐵道ニ關スル壓迫其他ノ爲同鐵道ノ賣却ヲ提議スルニ至リ其商議ノ開始ヲ見タルモ滿洲里及「ポクラ」ニ於ケル東支蘇鐵間ノ直通聯絡ヲ斷タレ蘇鐵北鐵及浦潮港ノ價値ヲ減殺セラレ又滿洲國代表ヨリ買收價格ニ付豫期セサル低額（ヲ）迫ラルル一方日滿新聞中ニハ同鐵ノ滿洲國ニ依リ實力接收說乃至北樺太沿海州賣却說スラ報スル者ヲ生シ加フルニ這間東京交涉ニ付我政府ニ對シ好意的斡旋ヲ求メタルモ時期ニ非ストテ回避セラレタル等益々對日不安ヲ增シタル爲一層極東ノ軍備充實ニ熱中スルニ至レルモノト認メラル從ツテ其行動ハ發動的ニ非スシテ寧ロ防守的ノモノト一應認メラルルモ蘇側軍當局ニ於テハ極東ノ事態ニ付初ヨリ强硬ナル意見ヲ持シ苟モ蘇側ノ權利利益ヲ侵迫スル者アラハ之カ排擊ニ努ムヘシトナシ東支鐵道賣却ニ付テハ反對セル趣ナルト共ニ（往電

第二四五號參照）最近當國言論機關中ニハ對日態度變更ノ要ヲ說キ或ハ日蘇開戰ノ切迫ヲ說クモノアリ

又[2]寄席ニ於ケル藝人スラ日蘇戰爭ヲ話題トシ聽衆ノ喝采ヲ博シ居レルカ如キ次第ニシテ（往電第四五三號參照）當國ノ對日感情著ルシク硬化ノ傾向モ存スル處當國軍部ハ近時戰爭指導ノ根本主義ヲ改メ開戰當時ヨリ攻勢ヲ取リ殲滅戰法ヲ取ルコトトナシ其ノ武力要素ニ付テモ既ニ相當ノ確信ヲ有スルニ至リタル模樣モアリ又最近極東方面ヲ經テ來莫セル我軍部關係者ノ談ニ依ルモ蘇側ハ餘程ノ覺悟ヲ以テ極東ノ軍備ヲ充實シ居ルモノト認メラルルノミナラス今日ニ於テハ歐洲及近東諸國トノ不侵略條約成リ極東ニ事アルモ背後ヲ顧念スル要無キニ至レル次第ナルヲ以テ形勢ノ如何ニ依リテハ遂ニ隱忍ヲ破リ敢然進擊的行動ニ出テ來ル無キヲ保セサル姿勢ニアリ（種々ノ關係上蘇側ハ直接我カ本土ニ向ツテ行動ヲ取リ來ル場合モ想像シ得ヘシ）之當國事情ニ通スル近國ノ諸新聞及在當地外國通信員等カ極東ノ事態ヲ火藥庫ナリト形容シ日蘇開戰ノ迫レルヲ傳ヘツツアル所以ト認ム

二、在滿大使發閣下宛電報第一〇一一號及第一〇五一號ニ依レハ我政府トシテハ近キ將來ニ亘リ大陸ニ事ヲ構フルコトヲ避ケ度キ御方針ナルカ如ク窺ハレ右ハ往電第四五三號ヲ以テ開陳セシ通リ我カ國內外ノ狀勢ニ顧ミ當然ノ儀ト存ス然ルニ傳聞スル處ニ依レハ今尙我國ノ一部ニハ對蘇開戰ハ時期ノ問題ナリトシ又蘇側カ極東方面ノ軍備ヲ怠ラサル以上我國ノ安全ニ脅威ヲ與フルニ鑑ミ早キニ臨ミ沿海州ノ占領ヲ策スヘキナリトナシ或ハ蘇ニ一擊ヲ與ヘナハ蘇政府ハ內部ヨリ崩壞（ス）ヘシトナシ或ハ又我カ國ニハ思想的危機アリトシ之カ打開ノ爲ニハ對蘇開戰ヲ選フヘキナリト爲スモノ等モアルカ如ク又更ニ仄聞スル處ニ依レハ我カ國極右系分子ノ一部ニハ五、一五事件關係者ト類似ノ思想ノ下ニ對蘇戰爭ヲ起スヘシト爲スモノスラアルヤノ趣ナルカ

[3]之ト同時ニ滿洲國側ニ於テハ又東支交涉ヲ有利ニ導ク爲此ノ上トモ蘇側ニ强壓ヲ加ヘントスル事ヲ主張シ蘇側ハ從來ノ如ク今後モ之ニ屈服スルナルヘシト推定スル向モアル模樣ナル所例ヘハ右强壓計畫ノ實行カ不測ノ事變ヲ誘發スル惧アリト等シク上記諸現象ノ存在ハ動モスレハ政府ノ御方針ニ拘ラス出先ニ於テ何時如何ナル事變ノ突發ヲ見ルヤ計リ難キヲ思ハシムルモノニシテ前節所述ノ蘇側情勢ト相俟

ツテ事態甚タ寒心スヘキモノアリト認メサルヲ得ス

三、蘇聯ノ實情ト動向トニ關スル卑見ニ付テハ別ニ詳細郵報スヘキモ蘇當局ハ國内建設ノ爲戰爭ヲ忌ミ平和政策ヲ高唱シテ他國ト不侵略條約ヲ結フニ努メ内ハ五年計（畫）ヲ立テテ重工業及軍事工業ノ發達ニ努メ來レルカ該計畫ヲ强行セル結果物資食料品ノ窮乏ト之ニ伴フ人心ノ不安ヲ來シ又該計畫遂行ノ道途幾多ノ齟齬ヲ生シタル事實アルモ多數ノ巨大ナル企業カ開發創設セラレ殊ニ軍備ニ關シテハ當局カ豪語スル如ク相當充實スルニ至レル事モ事實ト認メラルル一方產業ノ計畫化ト作業ノ機械化トハ露人ノ通弊タリシ不規律ト怠惰ノ習性ヲ矯正シツツアルノミナラス革命後ニ敎育ヲ受ケタル青年例ヘハ十六歲以上三十六才迄ノモノ約六千万人ノ大部分ハ社會主義建設ニ對スル信念ヲ有スルニ至レル感アリ然モ當局ハ獨裁權力ヲ擁シテ機宜ノ方策ヲ採リ之カ實行ニ障碍トナルヘキ人物及事項ハ假借ナク處刑排除シ政權確保ノ爲赤軍ノ訓育「ゲペウ」ノ活用ニ細心ノ注意ヲ拂フ外活動ノ原動力タル技術者及勞働者ヲ好遇シ能率增進ノ見地ヨリ企業ニ付テハ商業的採算制度ヲ採用シ社會主義的競爭ト稱シテ同種企業間ニ其成績ヲ競ハシメ賃銀ニ付テハ出來高拂及賞與制度ヲ認ムル等ノ方法ヲ購（ママ）シ居レル實狀ナルカ（其）ノ上ニ本年ノ農作カ極メテ順調ナルニ加ヘ本年ニ初マレル第二次五年計畫ニ於テハ曩ニ農民ノ不滿ヲ買ヘル農村ノ强制集團化ヲ中止シ設計工業ノ增進ニ努メ居ル實況ナルヲ以テ假令或方面及或部類ノ人心ニ不滿不平ノ潛在スルアリ

又[4]當國ノ前途ニハ幾多困難ナル事情アルヘシトスルモ近キ將來ニ於テ政權ノ動搖スヘキ事由殆ト存在セス又假ニ外國ト戰端ヲ開クコトアリトスルモ政策ノ變更ハ別トシ現政權ノ崩懷スルカ如キコトハ到底想像シ得サル處ニ屬ス右ハ本使ノミナラス當地外交團員多數ノ所見ニシテ近時歐洲諸國カ當國ノ平和政策ニ應シ不侵略國條約ヲ締結スルニ至レル根本原因モ亦右ノ如ク當國ノ基礎カ羣化セル事實ヲ認メタル結果ナルト又一ニハ「スターリン」カ一國的社會主義建設ヲ唱道シ平和政策ヲ執リテ國民主義的傾向ヲ如實ニ示ス傍ラ之ニ反對セル「ジノウイエフ」「ブハーリン」ノ如キ鬪士ヲ「コンミンテルン」ノ中樞ヨリ除キ之ヲシテ事實「ソ」聯一國ノ機關タル觀アルニ至ラシメタルコト等ヲ認ムルニ至レル點ニアルモノト觀測セラル

四、以上ノ如ク蘇聯ハ今尙建設ノ途上ニアリト雖モ其產業軍事ハ數年前ニ比シ大變化ヲ現ハシ外交關係亦之ニ伴フテ進境ヲ示シ國力及國際的地位ハ明カニ向上鞏化シツツアル實情ナルカ故ニ我國トシテハ進ンテ之ト平和親善關係ヲ增進シ紛爭ノ原因トナルヘキモノノ除去ニ力ムルヲ得策トスルハ帝國内外ノ現勢ニ鑑ミ論無キ處ナルヘク蘇聯カ目下物資食糧缺乏ノ狀態ニアリ殊ニ極東方面ニ於テハ革命後ニ於ケル飢饉時代ニ彷彿タル外觀アルヲ見テ蘇聯ノ本體カ疲弊シ崩壞ノ危機ニアリト速斷シ又漠然蘇側ハ强壓ヲ反擊スル力ナカルヘシトシ輕擧事ヲ構ヘントスルカ如キハ大ナル危險ヲ伴フモノト信ス

本使ハ右ノ如キ見解ノ下ニ曩ニ不侵略條約ノ締結次テ通商條約乃至取極ノ商議開始ニ付上申シ又東支ニ關スル東京交涉ノ實現ニ付卑見ヲ開陳セシ處アル次第ナルカ以上ニ屢述ノ如キ事態ニ鑑ミ此ノ際政府ニ於テ不侵略條約問題ニ付再檢討セラレンコトヲ切望ス同條約ニ關シテハ感情乃至因襲ニ捕ハレ又ハ敵本的ト認メラルルカ如キ反對論ハ別トシ蘇聯ノ實勢並ニ其ノ國際關係ニ付確タル見据付ク迄ハ我對蘇關係ヲ不卽不離ノ狀態ニ置キ此ノ間我國力ノ涵養充實ニ努メ機ニ應シ和戰何レノ措置ヲモ執リ得ルノ自由ヲ殘シ置クヲ得策トスルト說クモノアリ一應傾聽スヘキカ如キモ右ハ現下ノ事態ニ卽セサルノミナラス國益伸張ノ寸時モ忽セニスヘカラサルニ思ヒヲ至ササル嫌アリ卽本使ニ於テハ今ヤ内外多事ノ我國トシテハ富國强兵主義ノ下ニ官民一致滿蒙經營ニ力ヲ致シ國力ノ培養强化ニ努ムルコト刻下ノ急務ニシテ之カ爲ニハ蘇聯ト親和シ大陸ニ於ケル脅威ヲ除キ万一ノ場合腹背ニ敵ヲ受クルノ惧レヲ防クコト必要ナルヲ以テ此ノ際蘇聯ト不侵略條約ヲ締結スルハ勿論進テ兩國通商關係ノ增進方策ヲ講スルコト得策ト信ス而シテ同條約ノ期間ハ之ヲ短期間ニ限ルコトモ一案ナルヘク要スルニ之カ締結ハ現下ニ於ケル極東ノ險惡ナル空氣ヲ一掃スルコトトナリ東支買收問題ニモ好影響ヲ與ヘ又延イテハ印度及近東方面ニ於ケル英國ノ態度ヲ牽制シ得ヘキ效果モ無キニアラサルカ如ク若シ又今尙之カ締結ノ時機ニ達セストセラルル何等理由アルニ於テハ少クトモ曩ニ政府ニ於テ設置ノ意向ヲ示サレタル日滿蘇間國境紛爭解決委員會ノ如キモノヲ實現セシメ最近頻發スル蘇滿國境紛爭事件ノ調整ヲ期シ事態ノ緩和ヲ計ラルルコト適切ト存ス

次[6]ニ東京交渉ノ前途ニ付テハ未タ豫斷ヲ許ササルモ忌憚無ク云ヘハ滿洲國側ハ始ヨリ高壓的態度ヲ持シ其ノ希望價格ニ付蘇側カ容認セサル限リ右以外ノ諸點ニ關スル審議ハ無益ナリトシテ商議ノ打チ切リヲ持チ出ス一方實力接收ノ意アルヲ仄カシ更ニ在滿大使發閣下宛電報第一〇一〇號ニ依レハ此ノ上其ノ强壓的手段ヲ取ルコトニ大体ノ方針ヲ決定セル趣ナル處滿洲國ノミノ立場ヨリセハ斯ル態度ヲ取リ交渉ヲ有利ニ展開スル爲或ル程度ノ手段ヲ取ルコトハ元ヨリ已ムヲ得サルヘク又其ノ代表ノ苦衷ハ之ヲ諒トスヘキモ抑々近時蘇側カ極東ノ軍備ヲ一層充實シ我カ國ニ不安ヲ與フルカ如キ狀勢ヲ誘致セル原因ノ一部ハ東支ニ關スル滿側ノ措置ニアルコト上述ノ通ニシテ殊ニ最近ノ如キ險惡ナル空氣ヲ釀成スルニ至レルハ東京交渉開始後ニ於ケル滿側ノ態度カ其ノ主因ヲ爲スモノト認メサルヲ得サル處滿側ノ斯ノ如キ措置乃至態度ハ帝國ノ後立テ無クシテハ取リ得ラレサル處ナルト共ニ表面獨立國タル滿洲國ノ名ニ於テ行ハルトモ事實ハ帝國ノ責ニ歸スルコトハ自明ノ理ニシテ若シ萬一滿側ノ措置ニ起因シテ不祥事ヲ見ルニ至ランカ帝國ハ之カ爲國運ヲ賭セサルヲ得サルコトトナルヘケ(カ)從テ東京交渉及之ニ伴フ滿側ノ策略ハ帝國ノ國運ヲ賭スルコトアルヘキ危險ノ下ニ行ハルルモノナルニ鑑ミ政府ニ於テハ常ニ滿側ニ對シ指導的立場ヲ取ラルルト共ニ今一層滿側ヲシテ其ノ責任ノ重大ナルヲ充分認識シ行動セシムル樣取計ハルルコト啻ニ本件ノミナラス滿蒙經營ノ將來ニトリ緊要ナリト存ス此等ノ點ニ關シテハ既ニ御考慮ニ上リ居ルヤトモ存スルモ當地ニアリテ觀察スル極東ノ事態ニハ頗ル憂慮スヘキモノアルヤニ認メラレ敢テ卑見ヲ上申ス

滿へ轉電セリ

滿ヨリ哈爾賓ヘ轉報アリ度シ

在歐米各大使ヘ暗送セリ

323 昭和8年10月4日 広田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛

石油関係懸案問題改善方に関する北樺太石油会社の対ソ要望事項について

付記 八月十八日付、作成局課不明

『北樺太石油利權試掘期間延長問題等ニ關スル外務、海軍、商工省三省會議經過概要』

欧一機密第九九號

昭和八年拾月四日

外務大臣 廣田 弘毅

在ソ連邦

特命全権大使 大田 爲吉殿

北樺太石油會社ノ對「ソ」要望事項ニ関スル件

本件ニ関シテ今般中里北樺太石油会社長ヨリ在本邦「ソ」聯邦大使ニ對シ別紙写ノ通申入レタル處仝大使ハ之ヲ莫斯科政府ニ傳達スヘキ旨約シタル趣ニ付右茲ニ送付ス

追而右申入ニ付テハ中里社長ヨリ豫メ当省ノ意見ヲ求メ来リタルニ付右ノ中ニハ当方ノ関與セサル事項モ含マレ居リ又要望事項全部カ「ソ」側ノ容ルル所トナルヤ疑問ナルモ「ソ」大使ニ提出スルコトハ差支ナカルヘキ旨回答シ置ケリ

尚本件ニ関シテハ別ニ詳細申進スル筈ナルニ付右ニ御承知置アリ度シ

(別紙)

昭和八年九月廿二日

北樺太石油會社長 中里 重次

ユーレネフ大使閣下

(欄外記入)拜啓過日御面會ノ榮ヲ得候節現場ニ於ケル企業ノ現況、對官憲、**トレスト**、特ニ組合トノ關係ニ就キ竝企業ノ困難ナル經營ヨリ離脱セシメンカ爲メ貴國政府ニ對シ小生ノ懷抱セル重要諸問題ノ陳情要求等ニ就キ卒直ニ意見開陳致シ閣下ノ御高配ヲ願度旨御話申上候カ短時間ノ通譯ヲ介セル談話ハ充分意ヲ盡シ兼候點モ有之ト存候ニ付キ茲ニ文書トシテ差上候條何卒御援助御取計煩度尤モ右ハ先般**トロヤノウスキー**前大使ニモ大略書面ヲ以テ配慮方御願申上尚ホ小生ノ代表トシテ**モスコー**駐在ノ稻石ニ交渉方下命致居候モノニ候カ未タ發動セサル前不幸病氣ニ罹リ候爲メ近々同人ノ交代トシテ他ニ代表ヲ差遣ノ上改メテ貴政府ニ申入レシムルコトニ致居候故幸ニ貴政府ニ於テ大局ノ上ヨリ當方要求ニ御同意被下候者獨リ會社ノ利益タルノミナラス惹イテ貴我兩國ノ經濟的乃至政治的關係ヲ一層親密ナラシムルヲ得ルモノト確信致候ニ付キ宜敷御取計ノ程切望致候

小生ハ此機會ニ於テ前記稻石ノ罹病ニ對シ貴國政府ハ甚大ノ御同情ト御厚意ヲ寄セラレ特ニ**クレムリン**病院ニ入院加

療スルヲ得セシメラレ御蔭ヲ以テ漸次快復期ニ向ヒ不日退院ノ運ヒニ相成候事ノ報告ニ接シ衷心ヨリ感謝致スト共ニ閣下ヨリモ可然御傳達賜リ候者欣幸之ニ過キス候終リニ小生ハ閣下ニ對シ深甚ノ敬意ヲ表シ候

一、對蘇關係竝日本人使役ニ就テ

現地ニ於ケル主作業竝附帶作業ハ着々整備シ殊ニ共產的待遇方面ノモノハ著シク見ルヘキモノアリ爲メニ監督官側ヨリノ要求モ非常ニ減少シ相互ノ意思疎通シ日常ノ些々タル問題ハ別トシテ大体ニ於テ大ナル問題ノ發生ヲ見ス又**トレスト**トノ關係ハ至極圓滿ナルハ予ノ喜フ所ナリ獨リ遺憾ナルハ組合ノ態度ニシテ彼等ハ毫末モ會社ノ實狀現地ノ實際ヲ考慮スルコトナク徒ラニ會社ヲ敵トシ只管鵜ノ目鷹ノ目ニ會社側ニ缺點ナキヤヲ密偵摘出スルニ之レ努メ加フルニ働カスシテ多額ノ賃銀ヲ得ル樣勞働者ニ宣傳行動セシメツヽアリテ只サヘ勞働能率ノ極メテ低キ露人勞働者ハ作業遂行ニ何等貢獻スル所ナク隨テ會社ハ多大ノ經費ヲ費シ容易ニ收益的經營ヲ爲スコト能ハス故ニ會社本來ノ使命ヲ全フセンカ爲メニハ原則的ニ日本人ヲ使役シタキ希望ヲ有ス本件ハ已ニ前大使前通商代表ニモ當時ヨリ詳細說明シ尙現通商代表ニモ先般現地視察歸京後組合ノ横暴ニ就キ詳細說明シ置ケリ

二、試掘期間延長ニ就テ

一千平方露里試掘期限ニ付テハ北京條約ニ於テ五年乃至十年ト規定セラレ利權契約ニ於テ調印當時ヨリ起算シ十一ケ年ト定メラレタルモノナルカ技術上ヨリモ經濟上ヨリモ到底斯ル短期間ニ此ノ尨大ナル地域ノ調査試掘ヲ完了スルコト不可能ナルハ何人ト雖異論ナキ處ナリト認ム是ヲ以テ曩ニ一九二九年再度ノ露都訪問ニ際シ切ニ相當期間ノ延長ヲ要求セシカ當時利權本部長ハ契約期限迄未タ相當期間ヲ剩スヲ以テ會社ニ於テ最善ノ努力ヲ爲サレ度愈期限切迫シ到底豫期ノ進捗ヲ見サルコト明カニナリタル際更ニ考慮スヘシトノ回答ニ接セリ然ル處今日ニ至ル迄會社ハ眞ニ最善ノ努力ヲ傾倒セルニ不拘採掘鑛區ニ編入セラレタルモノ乃至現ニ試掘中ノモノヲ加フルモ之ヲ一千平方露里ノ總面積ニ比スレハ未タ一割ニ達セサルニ期限ノ餘ス所今ヤ僅々三ケ年ニ過キサラントス

以上ノ次第ナルヲ以テ曩ニ前大使ニ對シテハ十ケ年ノ延長ヲ請ヘリト雖今回予ハ更ニ熟考ノ上五ケ年トシテ鑛區ノ設定ヲ自由ナラシメンコトヲ要求スルモノナリ

惟フニ試掘作業ハ一切會社ノ負擔ノミヲ以テ遂行スルモノニテ貴政府ハ一錢ノ經費ヲ投スルモノニ非ス而カモ貴方ハ會社ノ試掘調査ニ據リテ油田ノ眞相ヲ詳知シ得ルヲ以テ期限ノ延長ハ決シテ會社ノミノ利益ニ非ルコト勿論ナリ

予ハ何カ故ニ試掘作業ノ困難ナルモノナルヤニ就キ附加セントス

北樺太東海岸ハ茫漠タル**オコーツク**海ニ面シ一ノ港湾ナク島嶼ナク岬角ナキ殆ント一直線ノ遠淺ニシテ寒流ノ關係上西海岸ニ比スレハ船舶ノ航海季節更ニ短期間ニテ實ニ六月中旬ヨリ十月迄ノ四ケ月ニ滿タス而カモ夏期ハ濃霧ノ季節ナルカ爲メ航海上ノ能率更ニ減セラレ剩ヘ時々大風ノ襲フ所トナリ時トシテハ危險ニ頻スルコトアリ、海上面ノ不利右ノ如クナル上陸地ハ如何ト云フニ大体ニ於テ森林ナラサレハ荊莉(蘚カ)又ハ**ツンドラ**地帶ヲ以テ充タサレアルノミ素ヨリ道路ノアルヘキ筈ナク人跡稀ニシテ物資皆無ナルヲ以テ一切ノ材料ハ勿論食料品日用品ハ全部之ヲ日本内地ヨリ海路輸送ヲ爲シ種々ノ危險ト困難ヲ冒シテ陸揚ノ後ハ更ニ前記ノ困難ト障害トヲ排除シテ遠ク之ヲ試掘地ニ運搬セサルヘカラス然ルニ貴國法規ハ殆ント比類ナキ苛酷ナルモノニシテ宿舍其他一切ノ技術的建設物ヲ始メントシテ道路其他ノ交通機關ノ如キモ採掘鑛區ノ夫ニ於ケルト略同樣ノ完全ナル永久的施設ヲ强要セラルヽ處元來試掘ナルモノハ地表面ノ地質調査ノ結果有望ト認メラルヽ個處ニ掘井スルコト勿論ナルモ其ノ成功率ノ極メテ小ナルハ萬人ノ了解スル所ナリ左レハ該作業ニ附隨スル建築物其他ハ當然一時的ノ利用ニ供シ得ルヲ以テ足レリトス然ラサレハ調査ノ結果採掘鑛區タルノ價値ナキ場合數十萬ヲ投セル一切ノ固定的設備ハ空シク抛棄セサルヘカラスシテ此上ノ不經濟ナキ愚劣極マルモノト云フヘキナリ

三、蘇國產石油ノ一手販賣交涉促進ニ就テ

石油ノ必要ナルハ今更申ス迄モナク別シテ我日本ハ石油ニ惠マレサル關係上夙ニ外油ヲ輸入シ以テ國内ノ需要ニ供シ居レルコトハ御承知ノ通リナリ先年北京條約ヲ締結シ國交恢復ノ代償トシテ北樺太ニ於テ石油石炭ノ利權ヲ賦與セラレタル蓋シ右ノ理由ニ出テシモノト認メラル去

レハ我國トシテ出來得ル限リ利權地ヨリ多量ノ油ヲ採取シ内地ニ搬出スルコト極メテ必要且ツ當然ニシテ貴トレストヨリモ其ノ創業以來今日ニ至ル迄多年其ノ採油ヲ會社ニ於テ購入シツヽアルモ亦同一理由ニ基クヲ以テ今後共經費ノ許ス限リ永年ニ亘リ引續キ多量購入スル方針ナリ

更ニ歐露產石油ノ購入問題ニ就テモ單ニ英米ノmonopolyニ對スル牽制タラシメ得ルノミナラス國防上ハ勿論國内工業產業ノ維持發展上ヨリモ有意義ニシテ貴我兩國ノ貿易關係惹イテ政治的關係ニ於テ重大ナル役割ヲ演シ兩國ノ親善關係ヲ一層增進スルモノト信シテ疑ハサルモノナリ

從來歷代ノ通商代表ヨリ蘇國產石油ヲ我海軍省ニ販賣シタシトノ提議アリテ秘密裡ニ予ニ斡旋ヲ依賴セラレタルコト屢々アリ予ハ如上ノ見地ヨリ喜ンテ紹介ノ勞ヲ採リシモ每モ價格ノ點ニテ遺憾乍ラ成立ヲ見サリシナリ然ル處昨年五月モスコー駐在ノ予カ代表ヨリノ報告ニ依レハ貴國政府ハ會社ニ對シ歐露產石油ノ輸入ニ就テ提案アリ爾來久シク交涉ノ結果貴方ハ日本ニ於ケル一手販賣權ヲ會社ニ與フルコトニ關シ主義的ニ同意シ基本的交涉成立ヲ見タルヲ以テ年末代表ヲ召還シ細目協定締結ニ關スル指令ヲ與ヘ本年三月再ヒ渡莫セシメタル處不幸ニモ交涉相手方ノ轉任又ハ其後我代表ノ罹病等ノ爲メ一時交涉中絕シタルヲ以テ近日他ノ代表ヲ派遣シ交涉ニ入ラシムル豫定ナルニ付本件又一日モ速カニ實現センコトヲ切望スルモノナリ

四、法令ノ適用緩和乃至免除ニ就テ

會社ハ貴國領土ニ於テ作業スル關係上貴國法令ニ遵フヘキコト利權契約ノ條文ヨリスルモ素ヨリ當然ニシテ之ニ對シ何等反對セントスルモノニ非ス然レトモ現地ノ實狀ハ前述ノ通リナル上貴我兩國ノ習慣其他ニ多大ノ相違アルニ鑑ミ並ニバクー其他ノ如キ企業開始以來數十年ノ歲月ヲ經物資材料其他ニ不便ナキ文化的都市ニ適用スル法令ヲ其儘偏僻ノ現地ニ適用セントスルハ當ヲ得サルモノト認ムルト共ニ同一地ニ於テ同一作業ニ從事スル甲乙二企業ニ對シ差別的取扱ヲ爲スカ如キ不公平極マルモノト云ハサルヘカラス甚シキハ吾人利權企業ニ對シ何等除外例ナキ一般法規ヲ發布シナカラ强テ除外セントシ數回抗議ノ後發布七ケ月ヲ經テ無暴(謀カ)ニモ單行規程ヲ設ケテ企業ヲ除外シ吾人ノ權利ヲ剝奪シタルカ如キ故意ニ企業ヲ窘メ經營ヲ困難ナラシメントスルモノト解スルノ外ナシ斯クノ如クンハ吾人ハ遂ニ安シテ企業ニ從事スルコト能ハス先年利權契約調印後半歲ヲ經テ會社ヲ組織シ作業ニ從事セントスルヤ貴政府ハ一片ノ法令ヲ發布シ鑛區境界ヲ距ル五十米以内ニ鑿井スルコトヲ禁止セリ吾人ハ事ノ意外ナルニ驚キ百方抗議ヲ重ネタルカ聊カ省ミル處アリシカ約半歲ヲ經テ樺太ニ於テハ除外例トシテ五十米ヲ三十米ニ縮少スヘシトノ緩和的法令ヲ規程シテ現在ニ及ヘリ素ヨリ之サヘ同意スルモノニ非ルモ兎モ角モ過去ニ於テ法令緩和ノ一適例トシテ擧示スルヲ得願クハ他ノ諸法規ニ在リテモ現地ノ實情ニ適應スル處置ヲ執ラレンコトヲ望ム

最後ニ予ハ閣下ニ對シ幸ヒニ貴國政府カ前記諸要求ヲ承認セラレンカ會社ハ其ノ代償的意味ノ下ニ相當金額ヲ貴國政府ニ支拂フ用意アル旨陳述セシコトヲ記憶セルヲ確認ス

（欄外記入）

本書ハ九月廿五日「ユ」大使ヘ送付セラレタル由

尚「ユ」大使ハ之ヨリ先本信ヲモスコーニ傳達スヘキ旨約シタル由

（龜山）

（付　記）

北樺太石油利權試堀(掘カ)期間延長問題等ニ關スル

外務、海軍、商工三省會議經過概要

昭和八年八月十八日午后一時半ヨリ於外務省歐米局長室

出席者　○海軍省　牛丸軍需局長、田中軍需局第二課長代理

○商工省　福田鑛山局長、新倉鑛政課長、川村技師、妹川事務官

○外務省　東郷歐米局長、西第一課長、龜山事務官

東郷局長

北樺太石油會社ニ於テハ試掘期間延長問題等數項ニ關シ「ソ」政府ト交涉ヲ開始シタキ意向ヲ有スル趣ナルカ右ノ

中試掘期間延長問題ハ北京條約附屬議定書乙ノ改訂トナルニ加ヘ此種大問題ハ會社ノミノ交渉ニテハ頗ル困難ナルヘキニ付結局帝國政府ニ於テ「ソ」政府ト交渉セサルヘカラサルコトトナルヘシ就テハ其ノ際ニ處スル爲試掘期間ヲ幾年間延期セシムルヲ適當トスルヤ右試掘ニ對シ政府ハ如何程ノ補助ヲ爲シ得ヘキヤ等ニ關シ豫メ關係各省間ノ打合ヲ爲シ置キタキ次第ナリ

福田鑛山局長

北樺太石油會社長ノ言ニ依レハ昭和四年同社長カ莫斯科ニ赴キ試掘期間延長問題ヲ「ソ」政府ニ交渉シタル際政府ハ之ヲ認メ置キ乍ラ今更本件ヲ政府間ノ問題トスヘシトナスハ諒解ニ苦シムトノコトナリ。又期間延長ハ議定書乙條項ノ改善ナレハ勿論問題ナカルヘキ筈ナラスヤトモ思考ス

東郷局長

前述ノ通北京議定書ノ變更ナレハ結局政府間ニ於テモ交渉ノ要アリ然シ會社ニ於テ交渉スルヲ差控ヘシムル趣旨ニアラサレハ在「ソ」帝國大使ト密接ニ連絡シ適當ニ會社側ヨリ話ヲ切リ出シ又大使側モ然ルヘキ時機ニ正式ニ交渉ヲ開始スルモ一方法ナラン

何レニシテモ會社側ノミニテ本件ヲ解決スルコト困難ナルヘシ

而シテ政府間ノ交渉、開始期ハ北鐵買收交渉目鼻ツキタル時機ヲ可トセン（兩國間ノ良好ナル空氣ヲ利用スルコト可然）

牛丸局長

「ソ」政府ト利權當業者間ノミノ交渉ヲ以テ試掘期間ヲ延長セシムルコトハ困難ナラン而シテ政府間交渉開始期ハ北鐵交渉ノ目鼻ツキタルトキヲ可トスルコトモ了解セリ然ルニ同交渉失敗ニ歸シタルトキハ何時對「ソ」利權交渉ヲ開始スヘキヤ

東郷局長

同樣ニ早キ時期ニ開始スルヲ得策トスヘシ、北鐵交渉決裂セハ日「ソ」關係ハ惡化スルコトアリ得ヘク而モ斯ル空氣ハ急速ニ消失セサルヘキニ付惡化ノ程度少カルヘキ早キ時期ニ於テ交渉ヲ開始スルヲ適當トスヘケレハナリ

政府ニ於テ對「ソ」交渉ヲ爲ス場合矢張リ試掘期間五ケ年延長ニテ折衝然ルヘキヤ

牛丸局長

五ケ年位ニテ差支ナカルヘシ

福田局長

五ケ年間試掘期間ヲ延長セラルルコトハ結構ナリ

東郷局長

然ラハ試掘ニ對シ商工省ハ如何程ノ補助金ヲ交付セラルル豫定ナリヤ

福田局長

商工省トシテハ今般交渉セラレントスル五ケ年延長セラルヘキ試掘期間ニ對スル補助ニ付テハ差當リ計算ニ入レ居ラス商工省ニテハ大正十四年十二月ノ利權契約ニ定ムル試掘期間ヲ規準トシテ來年四月ヨリ約二ケ年半余ノ間ニ約二百七十萬圓ノ試掘補助金交付ノ計劃ナリ右額ハ試掘九井トシ一井ノ試掘費六十萬圓ト見テ其半額卽一井三十萬圓ノ補助ヲ爲ス意ナリ

現在ノ會社資力ヲ以テシテハ此以上ノ規模ヲ以テ事業ヲ行フコト困難ナル實狀ナレハ大藏省ヨリ低利資金借入方ニ付同省當局ニモ内々話シタルコトアルモ同省ノ同意ヲ得ルコトハ相當困難ナリ

尤モ國策上絶對必要トアレハ結局低利資金貸付規定ノ變更ヲ爲サシメテモ會社ニ貸付スル必要アラン

斯ル場合ニハ會社配當金ノ制限等モ考量ノ要アリ

東郷局長

會社ハ昨年「ソ」政府トノ間ニ一試掘地ニ二乃至四ノ試掘井ヲ掘ルコトヲ約定セル處右ハ如何ナル理由ニテ斯ル取極ヲ爲セルヤ一試掘井ノミニテモ莫大ナル經費ヲ要スルニアラスヤ

福田局長

「ソ」側ト各種懸案解決ノ要アリテ結局其ノ必要上ヨリ已ムヲ得ス「ソ」側ノ要求ヲ容レテ斯ル取極ヲ爲シタルモノナリ

川村技師

一試掘地ニ二乃至四本ノ井ヲ堀（掘カ）ルトアルモ一井成功セハ直チニ採掘鑛區ニ編入セラルル定メナレハ爾余ノ試掘井ハ實際上ハ問題トスルニ足ラスト思考ス（註）

依テ商工省トシテハ豫定試掘井九本トシテ補助金豫算ヲ計上シ居ル次第ナリ

（註）八月十九日北樺太石油會社古澤氏ニ昭和七年締結ノ對「ソ」試掘契約中ノ當該規定ノ解釋ヲ質シタル處

正ニ川村技師ノ説明ノ如キ趣旨ニテ「ソ」側ト交渉シテ契約ヲ締結シタル次第ナルモ契約文面上ハ一井成功セハ採掘區ニ編入セラルヘク爾余ノ豫定試掘井ハ場所ノ變更及試掘兼採掘井トシテ堀ルコトヲ得トアリテ幾分明確ナラサル點アレハ「ソ」側ト此點解釋ヲ確定シ置ク方安全ナリト回答アリタリ

牛丸局長

石油會社長ハ今後ノ試掘資金ヲ得ル爲及對「ソ」交渉上ノ便宜等ヲ考量シテ會社ヲ半官半民ニスヘシトノ意見ヲ有セラルル如キ所右ハ北京條約上差支ナキヤ

東郷局長

北京交渉ノトキ「ソ」側ハ政府當局ニ利權ヲ交付スルヲ絶對ニ好マサリシ結果政府ノ推薦スル當業者ヲ利權當事者トセル經緯アリ大多數ノ株ヲ政府カ持ツコトハ右精神トハ一致セザルガ如シ、御質問ノ點ハ尚研究シ置クヘシ

福田局長

當業者タル以上其處ヘ政府カ半分位投資シテ半官半民會社トスルコトハ條約ノ解釋上ヨリモ差支ナカルヘシト考ヘラル

尤モ半分以上モ政府カ株ヲ持ツコトハ「ソ」側ニ對シ面白カラサルヘシ而シテ會社ノ實狀ハ大株主ガ逃ケ出シツツアル有樣ナレハ一般ニ今後ノ資金增加ハ相當困難ナラン

東郷局長

石油問題ハ國家トシテ大問題ナレハ海軍側ニ於テモ國策トシテ北樺太利權助長策ヲ考量セラレタシ

牛丸局長

北樺太石油ハ國防上是非確保スル必要アルヲ以テ出來得ル限リ保護シタキ意向ナリ

東郷局長

目下會社側ニ於テ實行中ノ北樺太「ソ」側出油購入契約ヲ二三年ノ長期ニ亘ラシメ北樺太「ソ」側石油ノ獨占購入ヲ爲サシムルコトモ適當ナルヘシ

牛丸局長

然リ右ハ有事ノ際「ソ」側出油ヲ獨占シ得ルキツカケヲ與フルモノナレハ至極適當ナルヘシ

福田局長

右手段ハ合法的ニ有事ノ際「ソ」油ヲ入手シ得ルモノナレハ頗ル好都合ナリ

尚北樺太石油會社ヲシテ「ソ」側油田ノ買收又ハ委任經營ノ方法ヲ執ラシムルコトモ一案ナルヘキ處會社今日ノ資力狀況ニ於テハ自己所有ノ油田經營ニテ力一杯ナルノミナラス「ソ」側出油ハ勞銀其ノ他ノ生產費安ノ關係上反テ會社ノ油ヨリ安キ有樣ナルニ付右出油購入ノ方得策ナレハ會社ニ於テハ「ソ」側油田ノ買收乃至委任經營ヲ欲シ居ラス

東郷局長

斯ル問題及會社組織變更問題等ハオ互ニ今一應研究ノ上今後ノ會合ニ於テ更ニ協議スルコトト致度シ

而シテ試掘期間延長問題ハ先ツ會社ヲシテ交渉（大使ト連絡シツツ）セシメ之ト併行シ又ハ其ノ目鼻ツキタルトキニ於テ政府モ交渉ニ入リ北京議定書改訂ノ手續ヲ爲スコトトシタシ

爾余ノ諸交渉案件中留問題ハ北鐵交渉ニ於テ其ノ換算率協議セラレツツアルニ依リ今暫ラク其ノ成行ヲ見タル後交渉セシムルコト可然ト思考ス

（牛丸福田兩局長トモ之ニ贊同セラル）

次ニ勞働者ヲ試掘期間中日本人ノミヲ以テセントスルコトハ相當困難ナル交渉ナラン

妹川事務官

然ル場合ニハセメテ夏期中ノ勞働者ノミニテモ全部日本人トセシムルコトモ一案カト思考ス

東郷局長

右ハ一案ナリ此方法ニテ交渉スルコト適當ナルヘシ

福田局長

要スルニ我方トシテハ出來得ル限リ治外法權的取扱ヲ會社ニ與フル樣希望スル次第ナリ

牛丸局長

其ノ點ニ於テ北樺太買收モ一案ナルヘキ處「ソ」側ニ於テ其ノ意向ナキヤ

東郷局長

治外法權的取扱ハ困難ナルモ北京議定書ニ依リ收益的經營ノ可能ハ保障セラレ居レリ

次ニ大正十二年東京會議ノ際北樺太買却ノ意思ヲ表示シタルモ右ハ十五億トカ云フ尨大ナル數字ナリシカ目下ノ處「ソ」側ハ買却ノ意思ナキモノノ如シ

牛丸局長

北樺太ノ他ノ利權石炭、森林等差シタルモノモナキニ付實

際問題トシテ北樺太石油ノ爲同地領土權獲得案ハ不可ナリ

324　昭和8年11月10日　広田外務大臣より在ソ連邦大田大使宛(電報)

北樺太石油利権試掘期間延長その他利権条件改善につき先方の同意取付方訓令

本　省　11月10日発

第三〇九號

貴電第三九七號ニ關シ

北樺太石油及石炭利權ニ關スル我方要望事項ニ付テハ貴使赴任ニ際シ手交シタル覺書ニ依リ大体御承知ノ通ナル處北樺太石油會社ニ於テハ過般貴地ニ赴任シタル小宅(コタカ)出發ニ際シ對「ソ」交渉要目（内容同氏ヨリ聽取アリタシ）ニ付指令ヲ與ヘ更ニ今般訓電シタル趣ナルニ付同氏ハ貴官ノ御意向ヲ伺ヒタル上交渉ヲ開始スルノ運トナルヘキ處貴官ニ於テモ時機適當ナリト認メラルヽニ於テハ小宅ヲシテ要求ヲ提出セシメ會社側ヲ支持シテ其ノ要望達成方御盡力相成度而シテ右交渉案件中試掘期間ノ延長ハ北京條約附屬議定書乙第二項ノ變更ヲ來スコトトナリ單ナル利權契約第十二條ノミニ關スルモノトシテ取扱ヒ難キ義ナルノミナラス若シ右延長ヲ利權契約條項ノミノ改訂ニ依リテ行フトキハ爾後（欄外記入）右延長セラレタル試掘期間中ノ作業及其ノ結果採掘鑛區ニ編入セラレタル地域ニ付テハ條約ノ根據ヲ缺クトノ議論モ生スヘク其ノ結果例ヘハ北京議定書乙第七項ノ規定モ適用ナシトテ報償其ノ他ノ條件ニ關シ「ソ」側ヨリ何等難題ヲ持チ掛ケラルルカ如キコトナキヲ保シ難キ次第ナリ

就而ハ會社側交渉開始後商議順調ニ進捗ノ模様ナルニ於テハ貴官ハ適當ノ機會ニ「ソ」側當局ト交渉セラレ從來「ソ」側カ試掘(掘カ)地ノ鉱業的價値ノ認定権ノ所在、及試掘(掘カ)地ニ於ケル設備等ニ関シ不当又ハ過重ナル要求ヲ爲シタル等ノ為會社ノ試掘(掘カ)計劃実行ハ尠カラス妨ケラレタル一方試掘作業カ氣候及交通上最モ惠マレサル地方ニ於テ行ハルルモノナルコト一抗(抗カ)井ニ付五、六十萬圓ノ巨費ヲ要スルコト等技術上經濟上ノ理由モアリ今後三ケ年ヲ以テシテハ到底必要ナル試掘ヲ完了スル能ハス他面試掘ノ結果ハ「ソ」側ニ於テ受クル利益ノ寧ロ大ナルモノナルコト等ヲ説明シ試掘期間ノ五ケ年延長ニ付「ソ」側ノ同意取付方御盡力相成ル様御配慮アリタシ

尚前記議定書ノ改訂ハ交換公文ニ依ルコトト致度キ意向ナリ

（欄外記入）

利権ノ收益的経営ヲ不可能ナラシムルカ如キ制限ヲ加ヘサルコト

325　昭和8年12月4日　在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛(電報)

北樺太石油会社代表より試掘期限延長等につき請願書提出について

付　記　十二月三日付在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛公信公普通第三四〇号

小宅（武三）北樺太石油株式会社代表よりソ連邦人民委員会議に提出した利権契約締結に関する請願書

モスクワ　12月4日後発

本　省　12月5日前着

第六一三號

貴電第三〇九號ニ關シ

小宅北樺太石油代表ヨリ試掘期限延長並利契第三十一條ノ比率廢止試掘鑛區ノ設定及法規ノ緩和問題ニ關シ蘇側關係官憲ニ對シ請願書ヲ差出シ度キ旨申出アリタルカ今日是等利權契約改訂ノ根本問題ヲ提起スルコトハ時機適當ナリトハ認メ得ラレサルモ本件ハ既ニ東京ニ於テ中里社長ヨリ「ユレーネフ」大使ニ申出テ又試掘權延長等諸問題ニ付テハ往電第三九七號ノ通リ本使ヨリモ「ソコリニコフ」ニ對シ申述ヘ置キタルコトアリ將又本件會社側ノ要望達成ニ付テハ相當長時日ヲ要スヘキヤニ思考セラルル次第ナルヲ以テ此ノ際請願書ヲ提出シ置クモ一方法ナルヘキ旨申聞ケ置キタル處同代表ハ利權本部經由十一月廿九日附ヲ以テ人民委員會議ニ對シ右請願書（郵送ス）ヲ差出シタル趣ナリ

（付　記）

公普通第三四〇號　（昭和9年1月8日接受）

昭和八年十二月三日

在「ソヴイエト」聯邦

特命全權大使　大田　爲吉〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

小宅北樺太石油會社代表ヨリ「ソ」聯邦人民委員會議ニ提出シタル利權契約改訂ニ關スル請願書送附ノ件

當地駐在北樺太石油會社小宅代表員ヨリ利權契約改訂ニ關シ「ソ」聯邦人民委員會議ニ對シ十一月二十九日附ヲ以テ別紙寫ノ通リ請願書ヲ差出シタル趣ヲ以テ其ノ寫當館ニ提出アリタルニ付右茲ニ送附ス

（別　紙）

利權契約改訂ニ關スル請願書

北樺太石油株式會社ハ貴政府ニ對シ左ノ如ク上申スルノ光榮ヲ有ス顧レハ千九百二十五年十二月十四日我企業ノ基礎ヲナセル利權契約締結以來今日ニ至ル迄ノ間ニ於テ「ソ」聯邦ノ工業化ノ爲立法、行政及經濟ノ各般ニ亘リ幾多ノ改革行ハレタルカ右ニ伴ヒ本社ノ事業上ニ於テモ亦極メテ甚大ナル影響ヲ招來シ現在本社事業ハ「ソ」聯邦國營企業ノ享有スル特典乃至利益ハ毫モ享有スルコト能ハス唯タ其ノ義務ノミノ完全ナル履行ヲ要求セラレツツアル狀態ナリ然レ共斯ノ如キ大變遷ハ利權契約ノ約款ヲ審議シ協定ヲ締結セル當初ニ於テハ本社ノ全ク豫想セサリシ處ニシテ第一、今日契約ノ解釋ニ於テ將又其ノ適用ニ於テ不尠支障ヲ生シ第二、所轄機關對會社ノ關係ヲ益々複雜且困難ナラシムルノ結果ヲ招來シ第三、現地下級管轄機關ノ責任者カ利權契約ノ特殊性ヲ深ク考慮セス徒ニ法令ヲ曲解シ我企業ニ臨ミ同種「ソ」聯邦國營企業ニ比較シ常ニ差別待遇ヲ加フル結果企業經營途上ニ於ケル爭議件數ハ年毎ニ增加シツツアルモ其ノ圓滿ナル解決ハ益々困難ヲ加ヘツツアル實情ナリ斯クシテ企業ノ經營ハ次第ニ澁滯ヲ來シ徒ラニ物質的支出ノ增加ヲ見ツツアル次第ニシテ此事實ハ既ニ提出サレタル幾多ノ陳情書及抗議書ニ於テ明ナリ

前記狀況ノ下ニ本社ハ更ニ企業ノ經營ニ付テハ輓近ノ世界的不況ト戰ハサルヘカラサルモノナルカ此ノ間ニアリテ企業發展ノ爲メ殘サレタル唯一ノ條件ハ油田其物ノ有望性ナリト雖モ右ニ付テモ地理的條件ニ惠マレサル僻遠ノ地北樺太ニ於テハ多大ノ期待ヲ懸クル能ハサル次第ニシテ本社企業カ今日迄條件ノ許容スル最大限度ニ於テ其ノ事業ヲ繼續シ來レル所以ノモノハ常ニ日「ソ」經濟關係ノ相互主義ニ立脚シツツ我企業ノ特殊性ニ對スル自覺ト日本政府ノ援助

ニ因レルニ外ナラス

茲ニ本社ハ利權企業カ日「ソ」兩國間ノ接近ヲ律スル最初ノ條約ニ淵源ヲ有シ且兩國間ノ良好ナル善隣關係ヲ保持スヘキ楔ノ一トシテ又將來ニ益々兩國通商經濟關係ヲ强固ナラシムヘキ重キ使命ヲ有スルモノナルニ鑑ミ茲ニ貴政府ニ對シ企業經營上必要缺クヘカラサル援助ヲ請ハントスルモノナリ

「ソ」聯邦政府ニ於テ本社ノ事業經營上ニ已ニ發生シ若ハ將來發生スヘキ諸問題ニ付十分ナル好意的考慮ヲ加ヘラレ度キ處特ニ左記事項ニ付本社ノ願意ヲ採擇セラレ本社ノ事業經營ノ順當ナル發展ヲ可能ナラシムル樣懇願ス

企業ノ順當ナル發達ヲ期スル爲メ會社ハ現在ノ採掘鑛區ヲ更ニ增加スルノ必要ヲ痛感シ日本政府援助ノ下ニ大規模ノ試掘作業ヲ遂行セントスルモノナルカ之カ完成ヲ期スル爲メ左記請願ス

㈠、試掘期限ノ延長

利契規定ノ一九三六年十二月十四日ヲ更ニ五ケ年延長シ一九四一年十二月十四日ト變更スル事

我社ノ試掘作業ハ幾多ノ事情ニ因リ一九三二年ニ至ル迄澁滯ヲ餘儀ナクセシメラレタリ即試掘遂行手續、試掘ノ完全ナル範圍並ニ試掘區域ニ於ケル鑛業的價値ノ決定問題等之レナリ

此等諸問題ノ未解決カ會社ノミノ責ニ歸ス可ラサルコトハ過去ノ交渉ニ於ケル我社ノ主張ニ徵シ明ナリ

上記請願ノ外會社ハ左記ノ數項ニ就キ「ソ」政府ノ承認ヲ請フモノナリ而シテ之レカ達成セラレタル場合會社ハ延長セラレタル前記試掘期間中政府ニ對スル納付金ヲ相當額增額スルノ用意アルコトヲ附言ス

㈡

一、八ケ年ノ試掘期間（千九百三十三年―千九百四十一年）

中利契三十一條ニ定メラレタル外國人從業員及勞務者ノ採用比率ヲ廢止シ主トシテ外國人ノミヲ採用シ得ルノ特典ヲ設クルコト

試掘作業並ニ同作業ノ主要ナル財政的基礎ヲナス採掘作業ノ發展ヲ期スル爲メ右ヲ必要トス

尙茲ニ特筆スヘキハ利契規定ノ比率ハ「ソ」聯邦ニ於テ自由勞働者豐富ナリシ時代ノ規定ニシテ「ソ」聯邦石油事業ノ發展並ニ極東勞働市場ノ特殊狀態ハ約定ノ

露人勞働比率ヲ半ハタニ提供スルコト不可能ニシテ國内ノ工業化並ニ失業者ノ根絶ト共ニ特ニ其ノ傾向甚シ而シテ規定ノ露人比率ヲ供給スルコト能ハサル一方ニ於テ比率規定ヲ履行セント努ムルノ結果ハ供給セラルル勞働力ノ質ノ著シキ低下及露人勞働力ノ不足ヲ補フヘキ日本人勞働者ノ輸送ニ關スル許可ノ澁滯トナリ之ニ起因スル紛爭事件ノ增加ヲ見ツツアリ

二、試掘鑛區ノ設定ニ關シ

前記八ケ年ノ試掘期間中利契十三條ニ規定セル一千平方露里試掘地域ニ於ケル試掘區域（九六〇「デシヤチン」）ノ形狀及大サヲ或特別ノ數地區ニ於テハ之ヲ縮少又ハ變更シテ設定シ得ヘキ事

三、法規ノ緩和ニ關シテ

前記八ケ年間ハ利契調印ノ日ヨリ今日ニ至ル迄ノ間ニ於テ變更サレタル「ソ」國法規並ニ一九四一年ニ至ル迄ノ間ニ變更又ハ發布スルコトアルヘキ法規中利契調印當時ニ於ケル會社ノ物質的負擔ニ比シ之ヲ增大セシメサルヘキモノノミヲ適用スル事

以上

2　北満鉄道をめぐる諸問題

326　昭和8年1月25日　在ハルビン森島総領事より内田外務大臣宛

李中東鉄道督弁提出による中東鉄道内部の業務改革に関する意見書について

機密第一〇三號　（接受日不明）

昭和八年一月二十五日

在哈爾賓總領事　森島　守人

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

東鐵内部ノ業務改革ニ關スル意見書送付ノ件

本件ニ關スル一月二十五日附在滿大使宛拙信公領機密第三七號寫送付ス

公領機密第三七號

昭和八年一月二十五日

在哈爾賓總領事　森島　守人

在滿　特命全權大使　武藤　信義殿

東鐵内部ノ業務改革ニ關スル意見書送付ノ件

本件ニ關シ東支鐵道督辦李紹庚カ當地小松原特務機關長ニ對シ提出セル意見書何等御參考迄別添送付ス

本信寫送付先　外務大臣

在奉天　吉林　滿洲里　齊々哈爾各總領事領事

（別　添）

東鐵内部ノ業務改革ニ關スル意見

要　旨

一、管理局蘇聯側局長、滿側副局長ノ權限ヲ平均セヨ

二、管理局各處ハ其性質ノ重要ト否ト拘ハラス平均ニ分配セヨ

三、財政權ハ理事會ニ歸收セヨ

四、正副處長ノ代理權ヲ速カニ規定セヨ

五、滿露文ノ併用ヲ徹底セシメヨ

六、各鐵道倶樂部ニ滿側幹事ヲ加ヘヨ

七、各貿易場設置ノ代辦所ヲ取消シ宣傳機關ニ利用スルヲ防止スヘシ

八、兩次ニ亘リ蘇領内ニ引込ミタル車輛ヲ回收スルヲ要ス

九、「ウスリー」「ザバイカル」兩鐵道ノ使用中ノ貨車ヲ返